HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	わが国最初の「印度哲学史」講義 (一) : 井上哲次郎の未公刊草稿
Author(s)	今西, 順吉
Citation	北海道大學文學部紀要, 39(1), 1-82
Issue Date	1990-11-10
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/33560
Type	bulletin (article)
File Information	39(1)_PR1-82.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

わが国最初の「印度哲学史」講義（一）

――井上哲次郎の未公刊草稿――

今西順吉

目次

はじめに
第一篇　本文
凡例
第八章　尼夜耶学派
第九章　衛世師学派即チ勝論派（以上本号に掲載）
第十四章　各種ノ哲学派
第十五章　印度哲学ノ総評
第二篇　解説と注記

はじめに

ここに紹介するのは帝国大学文科大学哲学第一講座教授・井上哲次郎が明治二十七年迄に担当した講義「印度哲学史」の草稿である。草稿は全部で七冊あったと推定されるが、現存するのはそのうちの第四と第七の二冊のみである。第四は第八章「尼夜耶学派」と第九章「衛世師学派即チ勝論派」、第七は第十四章「各種ノ哲学派」と第十五章「印度哲学ノ総評」のそれぞれ二章ずつを扱っている。

この草稿も、さらには哲学講座の井上哲次郎教授が印度哲学史の講義を行ったという事実も歴史の中に埋没してしまったが、夏目漱石の俳句と西田幾多郎のわずかな記述を頼りに調査を進めた結果として発見することができた。その経緯ならびに講義が行われた当時の事情については本稿の第二篇において詳論するが、さしあたっては拙論「漱石と井上哲次郎『印度哲学史』講義」(『松ヶ岡文庫研究年報』第四号、一九九〇年三月)を参照して頂ければ幸いである。

井上哲次郎の草稿は現在、東京都立中央図書館井上文庫に保管されており、翻刻にあたっては、井上哲次郎博士の御遺族井上アヤ氏の御承諾と都立中央図書館の御許可を得たことを記して、感謝の意を表したい。

第一篇　本　文

凡　例

一、草稿に用いられているのは二つ折りの和紙で、各面は縦の罫線で十行に区切られている。各行には正確に二十字

が毛筆で書かれている。句読点は字数には数えられていない。

二、削除訂正ならびに補足が各所に書き込まれている。削除については、削除された文字の右側に×××を付し、訂正のために書き加えられた文字は括弧〔　〕の中に入れた。補足は行間や、特に原稿用紙の上端に多く記されているが、これも括弧〔　〕の中に入れた。

三、草稿には頁数が記載されていないので、翻刻においても草稿の枚数などを記載することはしなかった。

四、漢字の字体については草稿の通りを原則とした。常用漢字と同じか近い略字体が多用されており、それらには常用漢字を用いた。時に誤字があるが、誤字であることが明かな場合は特に断わらずに訂正した。

五、サンスクリット語の表記について、デーヴァナーガリー文字もローマ字転写も原文通りとし、第二篇において解説することとした。

六、外国人名を片仮名で表す場合に、草稿では右側に傍線を引いている。漢字・片仮名文では区別するためにこの方法は必要であるから、原文通りとした。

印度哲學史　第四

尼夜耶学派

衛世師学派即チ勝論派

第八章 尼夜耶学派

第一節 尼夜耶ハ衛世師ト密著ノ関係ヲ有シ、殆ド一学派ヲ成セリ、衛世師ハ実ニ尼夜耶ヨリ派生セル一学派ニ過ギズ、故ニ学者往々此両学派ヲ並称シ、一学派ノ如クニ叙述セリ、然シモ彼レト此レトハ自ラ差別ノ存スルナキニアラズ、尼夜耶ハ論法ヲ明カニスルヲ主トスルガ故ニ一箇ノ哲学組織ト云フヨリ寧ロ諸学ニ必要ナル方法論 methodology ナリ、然ルニ衛世師ハ一種ノ物理的世界観ニシテ自ラ哲学組織ヲ成セリ、尼夜耶ハゴタマ氏ノ創唱ニ係リ、十六題〔九句因、十四過類〕ヲ説明スルヲ主トシ、衛世師ハカナーダ氏ノ創唱ニ係リ、十句ヲ解釈スルヲ主トス、是故ニ此両学派ハ分チテ之レヲ叙述スルヲ可トス然レモ又彼レト此レトハ對照参観スルヲ要スルモノアルナリ、

尼夜耶ト衛世師ノ時代ニ就イテ異論ナキニアラズ、ヴェーベル氏オモヘラク吠檀他〔達〕経中ニ唯〻衛世師〔ノミヲ駁撃シテ毫モ尼夜耶ノ一ヲ言ハザルヲ以テ之レヲ見レバ、尼夜耶ハ衛世師〕ヨリ後レタルナラント、然レモヴェーベル氏モ此事ヲ断言セシニハアラズ、論旨発達ノ順序ヨリ云ヘバ衛世師ハ尼夜耶ニ本イテ起リ、更ニ一派ヲ成セシナラン、モニエル、ウヰルリヤムス、デヴィース諸氏皆尼夜耶ヲ先トシ、衛世師ヲ後トセリ、

第二節 尼夜耶 Nyâya ハ「題目ニ入ル」ノ義、換言スレバ題目ヲ分解的ニ推究スルヲ謂ナリ〔フ、即チ因明ナリ、尼夜耶学派ノ人ヲ Naiyâyika ト云フ、即チ因明学派ナリ〕尼夜耶ノ分解的ナルハ僧佉ノ總合的ナルト正反對ヲ成セリ、尼夜耶ノ創唱者ハ、前節ニ指名セルガ如ク、ゴタマ Gotama〔(正シクハ Gautama)〕ト云ヘル人ナリ、釈迦ノ名モゴタマナレモ、固ヨリ別人、混同スベキニアラズ、ゴタマ氏ノ一ニ就イテハ或ハ云フ、ゴタマ氏ハ「トレタ」時代ノ初

メニ北印度ニ生レ、波羅賀磨ノ女子、アハリヤー Ahalyâ ヲ娶リタリト、是等神怪的ノ傳説ノ外、少シモ確実ナルモノナシ、然レモゴタマ氏ノ波羅門ナリシハ彼ノ傳説ニヨリテ略〻推測スベキガ如シ、要スルニ、ゴタマ氏ハ印度論法〔理〕〔即チ因明 Hetuvidyâ〕（即チ因明）ノ元祖ニシテ猶ホアリストテレスノ希臘ニ於ケルガ如シ、ゴタマ氏ニ綽名アリ、「アクシヤ、パーダ」Aksha-pâda〔ボェトリンク氏ノ梵語字典 अक्षपाद ノ下ニ Beiname des Philosophen Gautama トアリ、其他モニエル、ウェルリヤムス氏ノ印度智識論 (p. 96. Note 1) ムイル氏ノ Original Sanskrit Texts, Vol. III. p. 199 ウェーベル氏ノ印度文学史 (transl. by John Mann, etc. p. 85 & p. 245 ニ見ル〕ト云フ、目足ノ義ナリ、是レ其人ノ抽象的ニシテ常ニ足ヲ睨ミタルヲ謂フカ、又ハ頭ニアル両眼ハ用ヒザル程抽象的ニシテ不思議ニモ足ニ目アリトノ意ヲ謂フカ、其義詳ナラズ〔鳳潭ガ〕瑞源記巻一（第二葉左）ニモ種々ノ説ヲ擧グレモ、皆信ズベカラズ、殊ニ其「足者多、目者慧、以二多起一レ慧、名為二足目一」ト云フガ如キハ譯字ヨリ附會セルモノニテ固ヨリ取ルニ足ラザルナリ、何ヅレニシテモ氏曽テ足目ノ綽名ヲ得タリ、ヴェーベル氏ニヨレバ足目ハ吠陀学者マードハブ氏 Mâdhava ノ始メテ稱セル所ナリ、因明論大疏巻一（第二葉右）ニ云ク「刼初足目創標二眞似一」ト、是レゴタマ氏ノ始メテ因明ヲ講出シタルヲ謂フ、蓋シ釈迦、龍樹、無着、世親、陳那、天主等ノ諸氏ゴタマ氏ノ論法ニ得ル所アリ、尼夜耶派ノ經文ハ尼夜耶經 Nyâya-sûtras ト云フ、總ベテ五巻アリ、バランチーン氏其四巻ヲ訳シ、又其大要ヲ著ハシ、論理楷梯 Tarka-sangraha ト云フ、学者ノ便トスル所ナリ、

或ハ云フ、尼夜耶ハ即チ尼揵子ナリト、是レ大ナル誤想ナリ、尼揵子ハ Nirgrantha ト称スル〔「ジヤイナ」教ノ〕一派ニテ尼夜耶トハ少シモ関係ナキモノナリ、〔「ジヤイナ」教ハ克己派 Yatis ト聽講者 Çrâvakas ノ二派ニ分レ、克己派亦分レテ白衣派 Çvetâmbaras ト裸体派 igambaras ノ二派ニ分ル、此裸体派ハ即チ尼揵子ニシテ Γυμνοσοφισταί

裸形外道是レナリ〕尼揵子ノ音モ尼夜耶ト甚シク異ナルヿモ注意スベキナリ、

第三節 ゴタマ氏モカナーダ氏ト同ジク議論ヲナスニ当リテ左ノ順序ニ依ル、

第一、叙述 uddeśa……Enunciation

第二、定義 lakshaṇa……Definition

第三、研覈 parikshâ……Untersuchung

委シク之レヲ言ヘバ先ヅ其議論スベキ事項ヲ明言シ、次イテ之レガ定義ヲ下ダシ、終ニ其事項ノ性質ヲ研覈スルヿナリ、

然レモ尼夜耶派ニアリテハ十六題〔諦〕ヲ説明スルヲ主トス、是レ実ニ其骨子タルモノナリ、

第一、方法 Pramâna……正シキ智識ヲ得ルノ法ナリ、

第二、對象 Prameya……正シキ智識ヲ得ベキ所ノモノナリ、

第三、疑惑 Samsaya……論議スベキ點ニ就イテノ疑ナリ、

第四、動機 Prayojona……論議スルヿノ動機ナリ、

第五、例証 Drishtânta……的例ヲ謂フナリ、

第六、断定 Siddhânta……決定セル断案ナリ、

第七、推測 Avayava……言論ヲ分析スルヿナリ、

第八、辨駁 Tarka……反對者ノ論旨ノ弱點ヲ擧ゲテ論ジ詰ルヿナリ、

第九、証明 Nirnaya……論點ヲ確実ニスルヲ謂フナリ、

第十、爭論 Vâda……是レハ標題ノ如ク論爭ヲ謂フナリ、
第十一、紛諍 Jalapa……各種ノ論旨ヲ攻擊スルヿナリ、
第十二、暴駁 Vitanda……無益ノ駁擊ヲ為スヿナリ、
第十三、虛偽 Hetv-abhâsa……虛偽的ノ推論ヲ謂ナリ、
第十四、遁脫 Chala……遁辭ヲ設ケテ難點ヲ避クルノ術ナリ、
第十五、戲答 Jâti……無益ノ答辨ヲ為スヿナリ、
第十六、結論 Nigraha-sthâna……反對者ハ議論スルノ力ナシトシテ論辨ヲ終ハルヲ謂フナリ、

吉藏ガ百論疏上中（第二十九葉右）ニ尼夜耶派ノ十六諦ヲ擧ゲ、摩醯首羅天ノ説ク所トシ、「此十六諦異ニ勒沙婆十六諦ニ」ト云ヘリ、〔勒沙婆ハ尼揵子派ノ元祖ニシテ尼夜耶派ニ関係ナキモノナリ、〕今〔百論疏ニ載セル所ノ尼夜耶ノ十六諦ノ〕其名称ヲ擧ゲテ對照セン

十六諦
- (一) 量諦（四種アリ）……方法 means
- (二) 所量……對照 objects
- (三) 疑……疑惑 doubt
- (四) 用……動機 motive
- (五) 譬喩……例証 example
- (六) 悉檀……断定 dogma
- (七) 語言分別……推測 argument
- (八) 思擇……辨駁 confutation

(九) 決……証明 ascertainment
(十) 論議……争論 controversy
(十一) 修ニ諸義一……紛諍 wrangling
(十二) 壞レ義……暴駁 cavilling
(十三) 自證（五種アリ）……虚偽 fallacy
(十四) 難々……遁脱 quibbling
(十五) 諍論（二十四種アリ）……戯答 futility
(十六) 墮負……結論 conclusion

此中最モ重要ナルハ初メノ二題〔諦〕ナリ、他ノ十四題〔諦〕ハ皆従属的ニテ、議論ガ疑惑ニ起リテ結論ニ終ハル次第ヲ指示スルニ過ギザルナリ、

第四節 第一題〔諦〕ハ金七十論ニイハユル量ニシテ其種四アリ、第一ハ証量、Pratyaksha 即チ感官ニヨリテ得ル所ノ知覺ナリ、或ハ之レヲ現量、〔若クハ〕現知ト云フ、第二ハ比量 Anumâna 即チ推度ナリ、或ハ之レヲ比知ト云フ、推度ニ又有前、有餘、平等ノ三種アリ、有前ハ原因ニヨリテ結果ヲ推度スルヿ、之レヲ先天論トス、有餘ハ結果ニヨリテ原因ヲ推度スルヿ、之レヲ後天論トス、平等ハ比論〔一〕ニヨリテ〔他ヲ〕推度スルヿ、之レヲ比論トス、等三ハ譬喩量 Upmâna 即チ比較ナリ、或ハ之レヲ譬喩知ト云フ、第四ハ聖言、Sabda 即チ吠陀ノ如キ教権ナリ、〔或ハ之レヲ不能知ト云フ〕今之レヲ表ニスレバ左ノ如シ、

量 Pramânas
- (一) 証量 Pratyaksha
- (二) 比量 Anumâna
  - (一) 有前（先天論）
  - (二) 有餘（後天論）
  - (三) 平等（比論）
- (三) 譬喩量 Upamâna
- (四) 聖言 Sabda

僧佉派ノ量ニ比スレバ、譬喩量ノ一量ヲ加フ、平等〔比〕量ト譬喩量ハ蓋シ頗ル相近クシテ差〻相異ナリ、平等量ハ譬ヘバ一国ニ花ノ開クアレバ他国モ亦当ニ然ルベシト推度スルガ如ク、譬喩量ハ彼レト此レト類似ノモノヲ比較スル「ニテ、彼女ノ面ハ月ノ嬋奸タルニ似タリト謂フガ如シ、」〔挙ゲテ説明スル「ナリ〕

第五節 比量ハ五種ノ名辞ヨリ成リ、アリストテレス氏ノ推測式ト相類ス、亞歴山王遠征シテ印度ニ至リ、印度ノ学隨ヒテ希臘ニ入ルガ故ニアリストテレス氏ノ論法モ印度ニ本ヅクノ疑ナキニアナズ、ゲヨレス〔Görres〕氏ノ如キ、即チ此説ヲ唱道セシモノナリ然レモ来ダ確証ヲ有セザルガ故ニ、果シテ然リト断言スルヲ得ザルナリ、五種ノ名辞ハ左ノ如シ、

第一、命題 pratijnâ（宗）

第二、理由 hetu（因）

第三、例証（大前提）udâharana 又ハ nidarsana（喩）

第四、理由ノ應用（小前提）upanaya（合）

第五、結論 nigamana (結)

之レヲアリストテレス氏ノ推測式ニ比スレバ第一第二ハ多キニ過ギテ贅ナリ、然レモ已ニ推測式ノ体ヲ具備セリ、若シアリストテレス氏ニシテ果シテ印度ノ論法ニ本ヅク所ナカリシナラバ、思想分解ノ結果ハ期セズシテ暗合セシモノナラン、実例ヲ挙ゲテ尼夜耶派ノ推測式ヲ説明スレバ左ノ如シ、

(一) 此山ハ火アリ、(宗)
(二) 烟アルガ故ニ (因)
(三) 總ベテ烟テルモノハ火アリ例ヘバ竈ノ如ク、(喩)
(四) 此山ハ烟アリ、(合)
(五) 故ニ火アリ、(結)

或ハ又

(一) 音響〔声〕ハ無常ナリ、(宗)
(二) 生ズルガ故ニ、(因)
(三) 總ベテ生ズルモノハ無常ナリ、例ヘバ瓶ノ如ク、(喩)
(四) 音響〔声〕ハ生ズ、(合)
(五) 故ニ無常ナリ、(結)

デヴィキース氏ニ據レバ或ハ前三分ヲ取リ、或ハ後三分ヲ取ル、若シ後三分ヲ取レバアリストテレス氏ノ推測式ト異ナルヿナシ、〔此レニ由リテ之レヲ観レバ、〕印度論法ノ進歩実ニ驚クニ堪ヘタリ、

第六節　第二題[×]〔諦〕ハ吾人ノ正シキ智識ヲ得ベキ所ノ一切ノ事物ヲ包含ス、其數十二種アリ、〔之レヲ尼夜耶派ノ範疇トナス〕

第一、精神　âtman……Soul

第二、身体　śarîra……Body

第三、感官　indriya……Senses

第四、客観　artha……Object of sense

第五、理解即チ智識　buddhi……Understanding

第六、心意　manas……Mind

第七、活動　pravṛtti……Activity

第八、過失　dosha……Faults

第九、輪廻　pretya-bhâva……Transmigration

第十、果報　phala……Consequences

第十一、苦痛　duḥkha……Pain

第十二、解脱　apavarga……Emancipation

精神ハ本質ニシテ〔數量、大小、特殊、結合、分離〕智識、〔快楽、苦痛〕欲望、嫌惡、意志、苦楽[××]〔勲功、罪業、想像ノ十四種〕ハ其性質ナリ、此ノ如キ性質アルニヨリテ精神ノ存在ヲ知ル、精神ハ各自ノ特有スル所ニシテ過去善惡ノ應報ヲ受ク、而シテ其継續ハ永遠ナリ、最大精神 Paramâtman ハ一切萬物ノ造化主ニシテ永遠明智ノ存スル所

ナリ、」身体ハ土質ノモノニテ感官ノ属スル所、精神モ之レト結合シテ始メテ苦楽ヲ感スルヲ得、或ハオモヘラク、身体ハ土、水、光ノ三者ヨリ成ルト、或ハ又土、水、光、気ノ四者ヨリ成ルト、然ルニゴタマ氏ハ迦比羅ト同ジク之レニ反シ、雁雑ナル諸成分ハ親密ナル結合ヲ成スベキモノニアラズト思惟セリ、」感官ハ外面的感官ニシテ土、水、光、気、精ノ五種〔ノ物質〕ヨリ成リ、嗅、味、視、聴、觸ニ對合ス、僧佉派ノ如ク五官ヲ以テ單ニ意識ノ変狀トスルモノニアラザルナリ〔ズ、其直ニ嗅、味、視、聴、觸ヲ以テ感官トセザルハ甚ダ奇ナリト謂フベシ〕〔例ヘバ視覚ノ如キハ眼ヨリ出デ、外物ヲ照ラス所ノ光線ナリ、プラトン氏ガ The body of these eyes they formed to consist of fire, not enough indeed to burn, but to give a gentle light suitable to each day (Timaeus, 45) ト云ヘルト、其意甚ダ相似タリ〕客観即チ感官ノ對象ハ臭、味、色、感、響ノ五種トス、カナーダ氏ノ六句（即チ実、德、業、同、〔同〕異、和合）ノ如キハ此中ニ従属スルモノナリ、」智識ハ概念ト記憶ヨリ成ル、概念ニ正アリ、邪アリ、正シキ概念ハ明晰ナル証明ニヨリテ得タルモノニシテ四種ノ別アリ、

第一、知覚ニヨルモノ、例ヘバ感官ニヨリテ瓶ヲ知覚スルガ如ク、（証量）

第二、推度ニヨルモノ、例ヘバ、烟ニヨリテ火ヲ推度スルガ如ク、（比量）

第三、比較ニヨルモノ、（譬喩量）

第四、啓示ニヨルモノ、例ヘバ吠陀ノ啓示ニヨリテ知ル所ノ如シ、（聖言）

邪ナル概念ハ之レニ反シテ証明ニヨリテ得ザルモノ、主トシテ、疑惑、虚偽的前提、謬誤ヨリ起ル、記憶ニモ亦正邪アリ、覺時ノ記憶ニハ正モアリ、邪モアリ、然レモ睡時ノ記憶ハ唯〻邪ノミ、」心意ハ内面的機関ニシテ感官ノ一ナリ、外面的機関タル五官ト結合シテ外界諸現象ニ於ケル智識ヲ生ズルモノナリ、尼夜耶派ノ心意ハ今日ノ心理学者ノ思惟

スル如キモノニアラズ、原子ノ如ク微細ニシテ永在的〔遠〕ナリ、其物タル全ク精神ト身体ニ異ナリ、其職タル、〔幾多ノ〕感覚ヲ分離シ、單一ノ感覚ヲ精神ニ示スニアリ、精神ハ此ノ如クニシテ一度ニ一種〔箇〕ノ感覚ヲ受クルユヱ、一瞬ニ多クノ感覚ヲ知覚スル能ハザルナリ、」活動ハ或ハ口頭的、或ハ精神的、或ハ身体的ニシテ、善悪功過ノ原因ナリ、是レ三種ノ過失即チ情慾、嫌悪、錯誤ノ結果ニシテ智者ハ之レヲ避ケ、一切ノ動作ニ無関的ナリ、」輪廻ハ精神ガ活動ノ過失ニヨリテ種々ナル身体ヲ經、果報ヲ招キ、苦痛ヲ受クルヲ謂フナリ、」解脱ハ智識ニヨリテ苦痛ノ原因タル二十一種ノ悪ヲ遠離スルナリ、尼夜耶派モ僧佉派ト同ジク智識ニヨリテ諸悪ノ存スル所ヲ知リ、始メテ眞ニ解脱スルヲ得ルモノトシ、道德ヲ以テ解脱ノ法トセズ、道德ニヨリテ幸福多キ生命ヲ得ベシト雖モ、此レニヨリテ諸悪ヲ殄滅スルヲ得ザルナリ、尼夜耶哲学ノ究竟目途ハ智識ニヨリテ解脱ヲ得ルニアリ、

第七節　古来因明学派ノ傳フル所ニ據レバゴタマ氏ハ九句因及ビ十四過類ヲ発明セリ、ゴタマ氏ガ九句因ヲ発明シタリトハ古来因明家ノ傳フル所ニシテ確証アルニアラズト雖モ、慈恩ガ「足目創標ニ眞似」（大疏巻一）ト云ヘルニ由リテ之レヲ考フルニ、眞似ハ九句因ヲ指スモノニ似タリ、且ツ陳那ノ理門論ニ本頌ヲ引イテ九句因ヲ論ゼリ、本頌ハ自家ノ頌ニアラザルガ故ニゴタマ氏ノ頌ヲ指スモノニ似タリ、故ニ姑ク古来ノ傳説ニ従ヒテ九句因ヲゴタマ氏ノ発明トス、慧晃ノ〔因明三十三過本作法〕纂解巻上（第八葉左）ニ云ク、「今九句因、是足目仙人所立也」ト、雲英晃耀氏モ「此ノ九句因ハ足目仙人ノ創ムル處ニシテ陳那ノ理門論ニ相承ス、大疏ノ縁起段ノ初メニ劫初足目創標ニ眞似トアルガ即チ九句因ナリ」ト云ヘリ、十四過類ニ就イテハ理門論（第十五葉右）ニ云ク「如レ是過類似能破性、多分依ニ彼足目所説最極成一故ト」、此レニ由リテ過類ノ足目ニ出ヅルヲ知ル、然レモ此ニ多分トアル以上ハ未ダ十四過類盡ク足目ニ出デタリト断言スルヲ得ザルナリ、要スルニ、九句因及ビ十四過類ハ後世因明学派ノ祖述スル所ニシテ最モ重要ナル論理法

トス、

因明学派ニテ命題ヲ宗ト云ヒ、理由ヲ因ト云ヒ、例証ヲ喩ト云フ、今此宗因喩ノ中第二ノ因ノ正不正ヲ断定スルニ九種ノ法アリ、之レヲ九句因ト称ス、因ハ宗ノ賓位ト喩〔ト〕ノ媒介者ナリ、然ルニ宗ノ賓位ニ関スルヿヲ同喩同品ト云ヒ、之レニ反スルヿヲ異喩異品ト云フ、媒介者タル因ハ同品ヲ宗ニ引合スルヲ職トスルモノユヱ、同品ト宗ノ賓位〔ト〕ニ遍通セルヿナラザルベカラズ、其遍通スルヲ有ト云ヒ、幾分カ関係スルヲ有非有ト云ヒ、少シモ関係セザルヲ非有ト云フ、然ルニ同品ニモ異品ニモ有、非有、有非有ノ三類アルヲ以テ總ベテ九種ノ法アリ、即チ左ノ如シ、

同品……有、非有、有非有、
異品……有、非有、有非有、

之レヲ相乗ズレバ三々九句トナル、同品ノ有ニ異品ノ三句ヲ乗ズレバ、同品有異品有、同品有異品非有、同品有異品有非有トナル、次ギニ同品非有ニ異品ノ三句ヲ乗ズレバ、同品非有異品有、同品非有異品非有、同品非有異品有非有トナル、次ギニ同品有非有ニ異品ノ三句ヲ乗ズレバ同品有非有異品有、同品有非有異品非有、同品有非有異品有非有トナル、合シテ九種アリ、之レヲ九句因ト云フ、今之レヲ表ニスレバ、

第一、同品有異品有……不定因
第二、同品有異品非有……正因
第三、同品有異品有非有……不定因
第四、同品非有異品有……相違因
第五、同品非有異品非有……不定因

第六、同品非有異品有非有……相違因
第七、同品有非有異品有……不定因
第八、同品有非有異品非有……正因
第九、同品有非有異品有非有……不定因

九句因ノ中第二ト第八ハ正因ナレモ、第四ト第六ハ同品ノ方ニハ全ク無関係ニテ寧ロ異品ノ方ニ関係スルガ故ニ其断定セントスル所ノ反對ノ結果ヲ得、故ニ之レヲ相違因ト云フ、其他ハ皆甲ナリトモ、乙ナリトモ断定シ得ベカラザルモノ、是レ其不定因ト称スル所以ナリ、

第八節　当時「ミーマンサー」学派ハ吠陀經ノ教権ヲ維持センガ為メ、声ハ永遠ナリト主張セリ、其中声ハ過去モ未来モ永遠ナレモ、事情ナケレバ隠没シ、事情アレバ発現スト云ヘルモノト、声ハ一タビ発スレバ永久不滅ナリト云ヘルモノト二派ニ分レタリ、前者ヲ声顕派ト云ヒ、後者ヲ声生派ト云フ、因明論大疏ニ「聲論師中總有二種一、一聲従レ縁生、即常不レ滅、二声本常住、従レ縁所レ顕、」ト云ヘルハ即チ声生声顕ノ二派ヲ述ブルモノナリ、〔唐ノ濮陽報城寺ノ〕智周ガ前記巻上末（第十九葉左）及ビ後記巻上（第三十七葉左）ニヨレバ声生派ニモ声顕派ニモ各〻四小派アリ、故ニ合シテ八派トス、声生派ノ四種トハ第一、内外ノ声ハ永遠ニシテ其体ハ一ナリトスルモノ、第二、内〔外〕声ハ永遠ニシテ、其体多ナリトスルモノ、第三、内声ハ永遠ナレモ外声ハ無常ニシテ、其体一ナリトスルモノ、第四、内声ハ永遠ナレモ、外声ハ無常ニシテ其体多ナリトスルモノ、是レナリ、声顕派ニモ亦此四種アルヲ以テ總ベテ八派ヲナスナリ、尼夜耶学派ハ是等声論派ニ反シテ声ハ永久ナラズトシ、九句因ニヨリテ之レヲ辨難セリ、今陳那ノ正理門論〔及ビ慈恩ノ因明大疏巻二〕ニ據リテ其方式ヲ擧ゲン、

第一、聲論派ヨリ勝論派ニ對シテ

(宗) 聲ハ常住ナリ、

(因) 吾人ノ思惟スル所ナルガ故ニ、

(喩) 例ヘバ虚空ノ如シ、

ト云ハンカ、吾人ハ常住ナルモノヲ思惟スル而已ナラズ、又無常ナルモノヲ思惟ス、故ニ此句ノ因ハ同品ニモ異品ニモ均シク関係アリ、之レヲ同品有異品有トス、此ノ如キ因ハ聲ノ無常ヲ断定スル能ハズ、故ニ不定ノ結果ヲ生ズ

第二、勝論派ヨリ聲論派ニ對シテ

(宗) 内聲ハ無常ナリ、

(因) 因縁ヲ俟チテ発生スルガ故ニ、

(喩) 例ヘバ瓶ノ如シ、

ト云ハンカ、発生スルモノハ同品ノ無常ナルモノニ限リ、異品ノ常住タルモノニハ少シモ関係ナシ、之レヲ同品有異品非有トス、此ノ如キ因ハ能ク声ノ無常ヲ断定スルガ故ニ正因トナル、

第三、又勝論派ヨリ聲論派ニ對シテ

(宗) 内声ハ人ノ意力ニヨリテ生ズルモノナリ、

(因) 其性質無常ナルガ故ニ、

(喩) 例ヘバ瓶ノ如シ、

ト云ハンカ、總ベテ人為的ノモノハ同品トナリ、人為的ニアラザルモノハ異品トナル、然ルニ無常ナルモノハ、人為

的ノモノ而已ニ限ラズ、異品ノ中ニモ無常ナルモノアリ、之レヲ同品有異品有非有トス、此ノ如キ因ハ不定ニシテ声ハ人為的ナリトモ然ラズトモ決スル能ハズ、

第四、又聲論派ヨリ勝論派ニ對シテ

（宗）声ハ常住ナリ、

（因）因縁ヲ竢チテ生ズルガ故ニ、

（喩）例ヘバ虚空ノ如シ、

ト云ハンカ、此因ハ其同品タル常住ニハ少シモ関係ナク、寧ロ異品タル無常ニ関ス、之レヲ同品非有異品有トス、此ノ如キ因ハ声ハ常住ナリト断定セズ、反リテ声ハ無常ナリト云ヘル反對ノ結果ヲ来タス、相違ノ過トナル、

第五、聲論派ヨリ勝論以外ノ宗派ニ對シテ

（宗）声ハ常住ナリ、

（因）聽覚ノ境界ナルガ故ニ、

（喩）例ヘバ虚空ノ如シ、

ト云ハンカ、生滅ノ象ナキモノハ同品ニシテ然ラザルモノハ異品ナリ、然ルニ聽覚ノ感ズル所ハ声ヲ除キテ別ニアルヿナシ、故ニ同品ニモ異品ニモ少シモ関係セズ、之レヲ同品非有異品非有トス、此ノ如キ因ハ不定ニシテ声ノ常無常ヲ断定スルヿ能ハズ、

第六、聲論派ヨリ又説ヲ設ケテ

（宗）内声ハ常住ナリ、

(因) 人ノ意力ニヨリテ生ズルガ故ニ、

(喩) 例ヘバ虚空ノ如シ、

ト云ハンカ、人為的ノモノハ同品タル常住ニハ全ク関係ナク、反リテ異品中ノ一部分ニ関ス、之レヲ同品非有異品有非有トス、此ノ如キ因ハ声ノ常住ヲ断定セズ、反リテ声ハ無常ナリト断定スル反對ノ結果ヲ来タス、故ニ第四ト同ジク相違因トナル、

第七、聲生派ヨリ聲顕派ニ對シテ

(宗) 内聲ハ人ノ意力ニヨリテ生ズルモノニアラズ、

(因) 其性質無常ナルガ故ニ、

(喩) 例ヘバ電空ノ如シ、

ト云ハンカ、人ノ意力ニ由ルモノハ異品ニシテ然ラザルモノハ同品ナリ、然ルニ同品中ニテモ電ノ如キ現象ハ無常ナリ、然レモ空ノ如キハ常住ナリ、故ニ此因ハ半ハ同品ニ関シ、半ハ然ラズ、然ルニ反リテ人ノ意力ニヨリテ成ルモノハ皆無常ナルガ故ニ、此因ハ異品悉皆ニ関セリ、故ニ此推測式ヲ同品有非有異品有トス、此ノ如キ因ハ同品中電ノ如キモノニ比シテ論ズレバ声ハ人ノ意力ニヨリテ発生セズト云フベケレモ、若シ異品中人為的ノ物ニ比シテ論ズレバ声ハ人ノ意力ニヨリテ発生スト云フベク、甲トモ乙トモ断定シ難ク、畢竟不定ノ因トナル、

第八、勝論派ヨリ聲顕派ニ對シテ

(宗) 内声ハ無常ナリ、

(因) 人ノ意力ニヨリテ生ズルガ故ニ、

（喩）例ヘバ瓶ノ如シ、

ト云ハンカ、生滅ノ現象ハ皆同品ニシテ生滅ノ現象ニアラザルモノ、即チ常住ノモノハ盡ク異品ナリ、今此因ハ同品中瓶ノ如キ人為的ノモノニハ関係スレモ、電ノ如キ自然ノ現象ニハ関係ナシ、故ニ同品ニハ半ハ関シ、半ハ関セザルナリ、然ルニ空ノ如キ異品ニハ少シモ関係セズ、故ニ此種ノ推測式ヲ同品有非有異品非有トス、此ノ如キ因ハ声ハ無常ナリト断定シ得ルガ故ニ正因トナル、

第九、聲論派ヨリ又勝論派ニ對シテ

（宗）声ハ常住ナリ、

（因）無形ナルガ故ニ、

（喩）例ヘバ極微及ビ太虚空ノ如シ、

ト云ハンカ、虚空及ビ極微ノ如キハ常住ナルガ故ニ同品ナリ、瓦器及ビ心識ノ如キハ無常ナルガ故ニ異品トナル、然ルニ今此因ハ同品中虚空ニ関係アレモ、極微ニハ関係ナク、又異品中瓦器ニハ関係ナケレモ、心識ニハ関係アリ、之レヲ同品有非有異品有非有トス、此ノ如キ因ハ同品ニモ異品ニモ関係アリテ確実ナル断定ヲ生ゼズ、即チ不定ノ因トナル、

第九節　九句因ハ尼夜耶派ガ他ノ学派ノ攻撃シ来ルニ当リテ自家ノ学説ヲ維持センガ為メ、因ノ正不正ヲ識別スルノ方法ニシテ、此発明ハ論理的分解トシテハ極メテ巧ナルモノ、アリストテレス氏ノ正式論法ニ於テ補フ所ナシトセザルナリ、然ルニゴタマ氏ハ反對者ノ過誤ヲ発見スルガ為メニハ十四過類ヲ発見セリ、左ノ如シ、

第一、同法相似過類……是レハ立者ノ論ニアリテハ異品ナルヲ強ヒテ、同品トシテ攻撃ヲ試ミルヿナリ、今声ハ無常

ナリ(宗)、人ノ意力ニヨリテ生スルガ故ニ(因)例ヘバ瓶ノ如シ(喩)ト立センニ、敵者之レヲ破シテ声ハ虚空ト同ジク無形ナリ、然ルニ虚空ハ永遠ナリ、声モ亦應ニ永遠ナルベシト云ハヾ、敵者ハ同法相似過類ニ陥レリ、内声ハ人ノ意力ニヨリテ生ズルモノナルガ故ニ其同品ナレモ、虚空ハ人ノ意力ニヨラザルガ故ニ勿論異品ナリ、然ルヲ敵者ハ声ハ虚空ト同ジク無形ナリ、虚空ノ無形ナルガ故ニ永遠ナルガ如ク声モ亦永遠ナリト、強ヒテ異品ヲ同品トシテ論ズレバナリ、

第二、異法相似過類……是レハ前者ノ反對ニテ立者ノ論ニアリテハ同品ナルヲ強ヒテ異法トシテ攻撃ヲ試ミルナリ、例ヘバ、立者ノ論ニアリテハ瓶ハ声ト共ニ人ノ意力ニヨリテ成ルモノ故ニ固ヨリ同品ナルヲバ、敵者駁シテ声ハ無形ニシテ瓶ハ有形ナリ、有形ノ瓶ガ無常ナルモ、無形ノ声ハ應ニ永遠ナルベシトシ、立者ハ人造ニ係ルト然ラザルヲ以テ常無常ヲ論ズルニ、更ニ有形無形ノ點ヨリ常無常ヲ論ジ、強ヒテ同品ヲ分チテ異法トスルガ如キヲ謂フナリ、

第三、分別相似過類……是レハ立者ノ論ニアリテハ同品ナルヲ強ヒテ分別シテ攻撃ヲ試ミルナリ、例ヘバ立者ガ声ト瓶ヲ同品トセルニ、敵者アリ、強ヒテ之レヲ分別シ、声ハ虚空ノ如ク不可燒不可見ナレモ、瓶ハ可燒、可見ナリ、故ニ声ハ虚空ト同ジク永遠ナルベシト云ヒ、立者ノ同品ハ其人造ニ係ルト云フ一點ニアルヲ顧慮セザルガ如キ是レナリ、第二ト第三ハ本ト同一種ノモノ、區別シテ両種トナスベキニアラズ、第二ニアリテモ第三ニアリテモ立者ガ同品トスル所ヲ敵者ハ他ノ差異點ヲ挙ゲテ之レヲ異品トシテ攻撃スルモノナリ、或ハ云フ、第二ハ敵者ガ立者ノ同品ヲ直接ニ異法トスルヲ謂ヒ、第三ハ立者ノ同品ヲ分別シタルノ後異品トナスヲ謂フガ故ニ其間自ラ差別アリト、是レ実ニ強ヒテ差別ヲ立ツルモノ、此ノ如キ根本的差別ハ二者ノ間ニ之レアルヲ見ザルナリ、

第四、無異相似過類……前者ハ同品ナルヲ強ヒテ異品トシテ攻撃スルナルガ、是レハ若シ果シテ同品ナラバ萬般ノ

事物皆同品ナラザルベカラズ、些ノ差違アルベカラズト云ヒテ攻ムルヿナリ、例ヘバ声ハ人為的ナルガ故ニ瓶ノ如ク無常ナリト云ハヾ声ト瓶ハ毫モ異ナルヿナク、瓶ノ可焼可見不可聞ナルガ如ク、声モ亦然ルベク、或ハ又瓶モ亦声ノ如ク不可焼不可見可聞ナルベク、両者一トナリテ差別アルヿナシト論難スルガ如キ是レナリ、

第五、可得相似過類……以上ノ四過ハ喩ニ就イテノ過類ナリ、第五ト第六ハ因ニ就イテノ過類ナリ、是レハ立者ガ正シキ因ニヨリテ論断シタルヲ他ノ因ニヨリテモ斯ク論断シ得ベキガ故ニ正シカラズト攻撃シ、因ハ宗ノ範圍ヨリ狹キモ誤謬ニアラザルヲ知ラザルニ起ル過誤ナリ、例ヘバ勝論派ガ声ハ無常ナリトノ宗ヲ立テタルヲ敵者攻メテ人為的ノモノ而已ガ其同品タルニアラズ、又天然的ノモノモ（即チ電ノ如ク）亦同品ナルアリ、然ラバ人為的ト云フ而已ガ声ノ無声〔常〕ヲ立スベキ因タルニアラズ、又可現的モ亦声ノ無常ヲ立シ得ベキ因ナリ、此ノ如ク他ノ因ニテモ声ノ無常ヲ立シ得ベキハ立者ノ因ガ正シカラザルガ故ナリト云フガ如キ是レナリ、

第六、猶豫相似過類……是レハ立者ノ宗ト因トヲ強ヒテ分別シテ非難ヲ試ミ、其意味明瞭ナラザルガ故ニ聽者ヲシテ猶豫セシムト云ヒテ攻撃スルヿナリ、例ヘバ敵者アリ、勝論派ガ声ハ無常ナリトノ論ヲ難ジテ、其無常ナリトハ顕現ノ前ニ滅スルヲ云フカ、將タ又顕現シテ後滅スルヲ云フカ、其「人ノ意力ニヨリテ生ズルガ故ニ」ト云フモ、初メヨリ存スルモノヽ人ノ意力ヲ俟チテ始メテ生ズルカ、或ハ又初メ無キモノヽ新ニ生ズルヲ云フカ、立者之レヲ明言セザル故ニ聽者ヲシテ猶豫セシムト云フガ如キ是レナリ、

第七、義准相似過類……是レハ立者ノ先宗後因ヲ先因後宗ニ倒離シテ義准シ、過誤ヲ示シ、反リテ自ラ宗因ノ廣狹ヲ識別セザルヨリ、過誤ニ陷ヰルヿナリ、例ヘバ、立者ガ人ノ意力ニヨリテ生ズルモノハ無常ナリトスルヲ敵者ハ之レヲ倒離シテ果シテ然ラバ人ノ意力ニヨラザルモノハ皆常ナルベシト攻ムルガ如キ是レナリ、

第八、至非至相似過類……是レハ宗ト因トハ一トセンカ、異トセンカ、若シ因ガ宗ノ中ニ至リテ一トナラバ宗ヲ立ツルヲ得ズ、若シ因ガ宗ノ中ニ至ラズ、宗ト全ク異ナリトセンカ、相互ニ無関係ニシテ宗ヲ立ツルヲ得ズト非難シ、宗ト因ハ同一ノ事物ノ両事件ヲ表ハスヿヲ知ラザルヨリ起ル過誤ニ陥キルヿナリ、

第九、無因相似過類……是レハ宗ト因トハ孰レカ先ナリヤト云ヒテ攻撃スルヿナリ、若シ宗ガ因ニ先チテアラバ因ヲ竢タズシテ成就セリ、何ゾ復タ因ヲ説クヿヲ須ヒンヤ、若シ因ガ宗ニ先チテアラバ未ダ所立ノ宗アラザルガ故ニ其因ハ因ニアラズ、若シ又宗ト因ト倶時ニアリトセバ因ニヨリテ宗ヲ立ツト謂フヲ得ズ、故ニ立者ノ因ハ因ナラズト辨難スルヿナリ、是レ宗ハ因ニ先チテ存スルモ因ニヨリテ始メテ立シ得ベキヲ知ラザルヨリ起ル過誤ナリ、

第十、無説相似過類……是レハ立者ニ對シ、汝其因ニヨリテ其宗ヲ立スト云ヘモ、汝ガ未ダ発言セザルニ当リテハ其因ナキガ故ニ其宗未ダ立セズ、隨ヒテ又其時ノ声ハ常住ナリ、ト攻撃スルヿナリ、是レ眞理ハ未説以前ニ存スルモ立者ヲ竢チテ始メテ確実ナルヲ知ラザルヨリ此過誤ヲ来タスナリ、

第十一、無生相似過類……例ヲ擧ゲテ之レヲ明カニセンニ、敵者アリ、勝論派ニ對シ、汝ハ人ノ意力ニヨリテ生ズルガ故ニト因ニヨリテ声ノ無常ヲ証スレモ、声ノ未ダ生ゼザルニ当リテハ其因アルヿナク、声ハ未生ノ位置ニアリ人ノ意力ヲ竢タザルガ故ニ常住ナリト攻撃スルガ如キ是レナリ、立者ハ單ニ已生ノ声ヲ論ズルニ、未生ノ聲ヲ以テ之レヲ辨難スルハ已ニ過誤ニ陥レリ、且ツ未生ノ声ト云フヿハ声顕派ノ一家言ニ過ギザルナリ、

第十二、所作相似過類……是レハ声ハ無常ナリ（宗）、因縁ヲ竢チテ生スルガ故ニ（因）ト云ヘル立者ニ對シ、声ヲ以テ瓶ト同一視シ、声ハ因縁ニヨリテ生スルガ故ニ瓶ノ如ク無常ナリトスレモ、瓶ハ外部ノ因縁ニヨリ、声ハ内部ノ因縁ニヨルガ故ニ瓶ニ比較シテ声モ無常ナリト論断スルヲ得ズト云ヒテ強ヒテ其所作性ヲ辨別シテ攻撃シ、反リテ自

ラ因ハ宗ト喩ニ貫通スベキ事情ヲ言表ハスガ故ニ強ヒテ之レヲ辨別スベカラズト云フヿヲ知ラザルヨリ過誤ニ陥レリ、

第十三、生過相似過類……是レ立者ノ宗ハ因喩ニヨリテ証明セラルトスルモ喩ハ証明ナキ故ニ立セズ、隨ヒテ又宗モ亦立セズト攻ムルヿナリ此ノ如キ反對者ハ喩ハ立敵同許ノモノニ限ルヲ強ヒテ其過ヲ生ジ、自ラ過誤ニ陥レリ、例ヘバ、声ハ無常ナリ（宗）因縁ヲ竢チテ生ズルガ故ニ（因）譬ヘバ瓶ノ如シ〔喩〕ト立センニ、敵者難ジテ瓶ノ無常ハ未ダ証明セラレザルガ故ニ之レヲ引イテ以テ声ノ無常ヲ喩フルヲ得ズト云フガ如キ是レナリ、

第十四、常住相似過類……是レハ例ヘバ声ハ無常ナリト立スルモノニ對シ、声ニハ無常ト云フ属性ガ絶エズ存スルナラン、果シテ然ラバ其実声ハ常住ナルニアラズヤト云ヒテ攻撃スルヿナリ、此ノ如キ反對者ハ立者ガ声ヲ以テ本無今有暫有還無トセルニ、永ク三世ニ渉リテ存在スルモノトシテ非難スルガ故ニ反リテ自ラ過誤ニ陥レリ、

第十節　ゴタマ氏ノ論法即チ因明ハ大ニ勢力ヲ得、後ノ学者ハ或ハ直ニ之レヲ採用シ或ハ更ニ之レヲ発達シ、以テ敵者ヲ破ルノ具トナセリ、瑞源記巻一（第十一葉左）ニ溜州（名ハ豐沼）ノ言ヲ引イテ云ク「西方内道外道一百餘部、皆申ニ立破之義一總号ニ因明一、此通下佛未ニ出世一之前上、始從ニ足目等一、總而論レ之、百餘家也」ト、果シテ然ラバ因明ノ印度ニ流行シタル、実ニ盛ナリト謂フベキナリ、ゴタマ氏以来生顕二論師及ビ勝數二学派ノ如キモ共ニ因明ニヨリテ其主義ヲ唱道シ、釈迦モ因明ヲ應用シテ外道ノ学説ヲ打破セシト見エ、其方式ハ解深密經巻五ニ出ヅ、或ハ因明大疏ノ初メニ「因明論者、源唯佛説」（第二葉右）ト云ヒ、又「因明者本佛經之名」（第四葉左）ト云ヘルニヨリテ因明ハ釈迦ニ始マルモノト思惟スルモノアレドモ、是レ決シテ然ラズ、因明ノゴタマ氏ニ始マルヿ已ニ第二節ニ辨明スルガ如シ、釈迦ハ因明ニ於テ別ニ獨得〔ノ〕創見アルニアラズ唯〻古来ノ因明ヲ應用セシニ過ギザルナリ、龍樹 Nâgârjuna ハ方便心論一巻ヲ著

ハシ、無着 Asaṅga ハ顕揚論十巻及ビ雑集論十六巻(?)ヲ著ハシテ論法ヲ詳覈ニセリ、無実〔着〕ノ弟世親 Vasubandhu ハ其師如意論師ガ外道ト論議シテ敗北シタルヲ悲ミ、舌ヲ嚙ミ切リテ死シタルヲ以テ自ラ論法ヲ研究シ、輪軌、論式、論心ヲ著シタリ、然レモ皆後世ニ傳ハラズ、世親ノ作ニシテ論法ニ関スルモノ唯〻如実論一巻アルノミ、後〔紀元六世紀ニ至リテ有名ナル論理家〕陳那 Djina ニ至リテ〔出デ、〕論法一變セリ、陳那ハ〔西域記巻十(十六左)ヲ見ヨ〕案達羅国 Andhra ノ人ニシテ、唐ニ童授又ハ授童ト云フ、具ニハ摩訶陳那伽 Mahâdjiâga、因明ノ専門家ニテ当時論法ニ巧ニシテ敵者ナキヲ以テ、大域龍ノ名アリ、(大域龍樹ニアラズ、アイテル氏ガ理門論ノ著者ヲ龍樹トスルハ誤ナリ、)瑞源記巻一(叙第三葉左)ニ云ク、「謂由ニ菩薩德雄辯捷、而立破自在、其猶レ龍故五印度域、莫ニ敢抗者一、称曰ニ大域龍一、」ト、以テ其辨論ニ熟達セルヲ察スベキナリ、陳那以前ヲ古因明トシ、陳那以後ヲ新因明トス、ゴタマ氏ハ古因明ノ鼻祖ニシテ陳那ハ新因明ノ嚆矢ナリ、陳那ノ著書四十餘部ニ及ベモ、支那訳ヲ經テ傳ハルモノハ因明正理門論 Nyâyadrârataṛka-sâstra 一巻アルノミ、因明大疏第一(第四葉左)ニ云フ「陳那所造四十餘部、其間要最、正理為レ先」ト、然レモ理門論ハ陳那ノ著書中最モ要領ヲ得タルモノナラン、然レモ辞簡ニ義深クシテ、暁得シ易カラザルモノアリ、是ヲ以テ陳那ノ弟子商羯羅主即チ天主 Sanparasvâmia(或ハ又骨鎖主ト云フ)因明入正理論 Nyâyapravesatârakа-sâstra 一巻ヲ著ハシテ理門論ヲ学ブノ楷梯トス、後玄奘三藏印度ニ入リ(紀元六百二十九年乃六百四十五年)留マル十七年、其間北印度迦濕彌羅国 Kasmira ニ至リ、僧伽耶舎論師 Sanghadâsa(即チ衆称)ニ就イテ因明ヲ学ベリ、僧伽耶舎ハ元ト南印度ノ人ナレモ、玄奘入竺ノ時ハ迦濕彌羅国ニ於テ大德 Bhadanta ノ称ヲ有シ、薩婆多 Sarvâstivādah 及ビ因明 Hêtuvidyâ 声明 Sabdavidyâ 論ヲ講ゼリ僧伽耶舎ハ薩婆多派ノ人ナリ、薩婆多ハ毗婆沙派ノ一派ニシテ一切現象ハ実有ナリト主張スルモノ、即チ、一切有部ナリ、後又玄奘中印度摩揭陀国 Magadha ニ至リ尸羅跋陀羅論師 Silabhadra(即チ戒賢)ヨリ因明ヲ授カリ、歸唐ノ後之レヲ慈恩

（名ハ窺基）ニ傳フ、慈恩、天主ノ書ヲ解釈シ、入正理論疏六巻ヲ著ハス、イハユル因明大疏是レナリ、次キ淄州論師（名ハ恵沼）出デ、纂要一巻義断一巻ヲ著ハシ、次ギニ智周論師出デ、前記後記六巻ヲ著ハシ、其他淄州ノ門人道巘、及ビ新羅ノ大賢、天台ノ清幹等相継イデ因明学ヲ講究セリ、我邦ニテハ孝徳天皇ノ白雉四年（即チ紀元六百五十三年）ニ道昭入唐シテ玄奘ニ就キ、慈恩ト同学シ、歸来リテ奈良ノ元興寺ニ於テ因明学ヲ傳フ、是レヲ南寺傳ト云フ、次ギニ元正天皇靈亀二年（即チ紀元七百十六年）ニ玄昉入唐シテ智周ニ就キ、因明学ヲ修メ、歸来リテ奈良ノ興福寺ニ於テ其修ムル所ヲ学徒ニ傳フ、之レヲ北寺傳ト云フ、其後因明学ニ多少ノ盛衰ハアレモ、歴代連綿トシテ今日ニ至ルマデ其系統ヲ絶タズ、是等ハ皆佛教家ナレモ、亦ゴタマ氏ノ影響ヲ受ケテ之レヲ継續スルモノナリ、瑞源記（寛永年間ニ成ル）ノ終ニ載スル所ノ書目ヲ見ルニ、印度人ノ著ニ係ルモノ、十六部、支那人ノ著ニ係ルモノ五十九部、日本人ノ著ニ係ルモノ、八十四部〔アリ、又東域傳燈録ニ和漢因明ノ書類九十八種ヲ録セリ、〕此レニ由リテ因明学ノ一時和漢ニモ頗ル盛ナリシヲ察知スルヲ得ベキナリ、

第九章　衛世師學派即チ勝論派

第一節　衛世師ハ尼夜耶ヨリ派出セル一種ノ哲学派ニシテカナーダ Kaṇâda कणाद ノ創唱ニ係ル、「カナ」ハ穀粒ノ義、「アダ」ハ食ノ義、「カナーダ」ハ穀粒ヲ食フノ義ナレバ、訳シテ之レヲ食米齋仙人ト云フ、「カナ」ハ又塵片ノ義ナルユヱ、モニエル、ウォルリヤムス氏ノ如キハ「カナーダ」ヲ Feeder on Atoms ト訳セリ、「カナーダ」ハ蓋シ宗祖ノ綽名ナラン、其実名ハ傳ハラズ、唯識疏巻一末（第卅九葉右）ニ云ク、「先為二夜遊一、驚二他稚婦一（因明疏ニハ産婦ニ作ル）、遂

収二塲碾糠粃之中米齊一食レ之、故以名也、時人號曰二食米齊仙人一」ト、大乘成業論ニハ之レヲ食米齊宗ト云フ、玄應ノ音義巻廿四（第廿七葉左）ニ云ク、「舊云二食屑一、此外道修二行苦行一、合二手大指及第二指一以レ物縛レ之、往至二人家舂レ穀簸レ米處一以二彼縛指一拾二取米屑一、聚置二掌中一、隨レ得二少多一、去以為レ食、若全粒者、即不レ取レ之、恐レ多二所取一、故縛二両指一耳」ト、塞尼陀、塞拏陀等ノ名ハ皆「カナーダ」ノ誤訳ナリ、正シクハ迦那陀（業成就論ニ出ヅ）ト称スベキナリ、「カナーダ」ヲ或ハ又「カナバクシヤ」Kanabhaksha 又ハ「カナブジュ」Kaṇabhuj ト称セリ、何ヅレモ「カナーダ」ト同一ノ義ナリ、「バクシヤ」及ビ「ブジュ」モ亦食ノ義ナリ、唯識述記ニ羯拏僕ト云ヘルハ即チ是等原語ノ音訳ナラン、又一ノ綽名アリ、温露迦 Uluka 又ハ Aulûkya ト云フ、（或ハ又優樓歌、優樓迦、優婁佉、優留佉ト云フ、金七十論ノ末ニ出ヅル優楼佉トハ同名異人ナリ、）是レ蓋シマードハヴ氏ノ付与スル所ニシテ鵂鶹ノ義ナリ、故ニ鵂鶹仙ト云フ、唯識疏巻一末（第三十九葉右）ニ云ク、「畫避二色聲一、匿二跡山藪一、夜絕二視聽一、方行二乞食一、時人謂レ似二鵂鶹一、因以名也、」ト、鵂鶹ハ梟ナリ、字彙ニ「怪鳥、陸佃曰、釈鳥所レ云怪鴟是也」トアリ、即チ我邦ニイハユル「フクロウ」ナリ（玄応ノ音義巻廿四第廿四葉ヲ参考セヨ）、温露迦ノ原語ヲ他ノ欧洲語ト比較スレバ左ノ如シ、

サンスクリット語……ウールースカス Ulukas
希臘語……オロリユゴン ὀλολυγών
羅甸語……ウルラ Ulula
獨逸語……オイレ Eule
英語……アウル owl

或ハ又カナーダ氏ヲ獯狐（クンコ）子ト云ヒ（理門論）、鵂角（クカク）仙ト云ヒ、殟胡（シコ）仙ト云ヒ（百論疏）、鶉鳩行外道ト云フ（応法師）、獯狐、鵂角

ハ鵂鶹ノ異名ナリ、殟胡ハ臭氣ヲ帯ビ居ル陋醜ナル人ト云フヿナリ、殟ハ臭ニ同ジ、鶉鳩ハ米ヲ拾フヿ鶉鳩ノ如キヲ謂フナリ、止観補行〔十之一〕ニ眼足ト云フハ迦比羅ト混同セルナリ、其時代ハ今詳ニスルヲ得ズト雖モ、尼夜耶派ニ後レテ起リ、大抵僧佉派ト同時代ニシテ少シク後タルナラン、勝論派ガ尼夜耶派ニ後レタルヿハ其論法ヲ應用スルヲ以テ之レヲ知ル、勝論派ガ數論派ニ後レタルヿハ慈恩ノ因明大疏ニ迦比羅ヲ成劫ノ初メニ出ヅトシ、迦那陀ヲ成劫ノ末ニ出ヅルニ由ル、決擇巻一（第四葉右）ニモ勝論派ハ數論派ヨリ後レテ起ルモノトセリ、百論疏ニ衛世師ヲ以テ釈迦ニ先ツヿ八百年トス、〔唯識述記一ノ末三十九右ニ成劫之末人、壽無量ト云ヘリ、止観輔行巻卅九七右其人在佛前八百年出世〕（妙文句、止観真記亦同ジ）然レドモ憑信スルニ足ラザルナリ、僧佉衛世師共ニ大抵紀元前六七世紀ニ起リシヿ種々ナル點ヨリ推測スルヲ得ベキナリ、カナーダ氏ハ当時尼夜耶派ノ学ヲ修メ、論法ニ熟達セル一名家ナリシヿ疑ナシ、氏ハ其学ヲ般遮尸棄 Panchaçikha（訳シテ五頂ト云フ、）ニ傳フ、般遮尸棄ハ婆羅痆斯国ノ婆羅門摩納縛迦 Manavaka（訳シテ儒童ト云フ）ノ子ナリ、婆羅痆斯国ハ Vârânasî 即チ江邊城、玄奘渡天ノ頃、恒河ノ畔ニアリシ市城ニシテ当時濕婆崇拜ノ盛ナリシ處ナリ、或ハ云フ、今ノベナーレス府即チ其地ナリト、唯識疏巻一末（第三十九葉以下）ニ云ク、

多年修レ道、遂獲二五通一、謂レ證二菩提一、便欣レ入レ滅、但嗟所悟未レ有二傳人一、愍二世有情癡無二惠月一、乃観二七德一、授レ法令レ傳、一生二中国一、二父母俱是婆羅門姓、三有二般涅槃性一、四身相具足、五聰明辨捷、六性行柔和、七有二大悲心一經二無量時一、無二具レ七者一、後經二多劫一、婆羅痆斯國有二婆羅門一、名二摩納縛迦一、此云二儒童一、其儒童子名二般遮尸棄一、此云二五頂一、頂髪五旋、頭有二五角一、其人七德雖レ具、根熟稍遅、即染二妻孥一、卒難二化道一、經二無量歳一、伺二其根熟一後三千歳、因下入二戲薗一、與二其妻室一、競レ華相忿上、鵂鶹因レ此乗レ通、化レ之、五頂不レ從、仙人且返、又三千歳化又不レ得、更三千年両競尤甚、相厭即切、仰念二空仙一、仙人應レ時神力化引、騰レ空迎二

往所住山中ニ、徐説ニ所悟六句義法ニ、(又因明論大疏五巻八右ニ見ユ)

衛世師ハ又吠世師、鞞世師、鞞悪迦、吠世師迦、吠世色迦、奢薩怛羅ト云フ、即チ勝論(カツロン)是レナリ、原語ニテ之レヲ「ブイセシカ」Vaiseshika वैशेषिक ト云フ、Visesha (特質ノ義) ト云ヘル語ヨリ来ル、今ボエトリング氏ノ梵語字典ヲ検スルニ विशेष ノ下ニ Uuterschied, Verschiedenheit, Besonderheit, Eigenthümlichkeit, eine specifische Eigenschaft トアリ、蓋シ迦那陀ノ同異、惠月ノ俱分ニ当ル、ヴェーベル氏オモヘラク、此学派ハ原子ニ特質アリトス、故ニ衛世師ノ名アリ History of Indian Literature, p. 245 ト、此説従ヒ難シ、वैशेषिक ニハ又 ein auszeichnender Unterschied, Superiorität, Vorzüglichkeit 即チ特異優秀ノ義アリ、従ヒテ又 विशेष ニモ此義アリ、玄應ノ音義廿四(第十六葉右)ニ云ク、「吠世師、此云ニ勝異一、過ニ餘論一故名レ勝、能破ニ餘論一令レ壞故、名レ異」ト、百論疏巻上中(第二十六葉右)ニ云ク、「衛世師此云ニ異勝論一、異ニ於僧法一故、稱為レ異、明レ義自在破レ他令レ壞(懐)故称為レ勝」ト、是等ノ説亦分解配当ニ過グ、衛世師ハ特異優秀ノ義ナルユヱ、譯シテ勝論ト云ヒ、勝異ト云ヒ、異勝論ト云フ、勝ハ優秀ノ義ナリ、唯識疏巻一(第三十九葉左)ニ云ク、「吠世史迦、諸論罕レ匹、故云レ勝也、或勝人所レ造、故名ニ勝論一」ト、此ニ勝論ト云フ名称ニ就テ、二種ノ異説ヲ擧グ、第一ハ其論、餘派ニ勝レルガ故ニ、第二ハ其人、餘人ニ勝レルガ故ニ、勝論ト云フ、然レモ此区別ハ殆ド無用ニ属ス、其論ノ勝ルハ其人ノ勝ルニ由リ、其人ノ勝ルハ其論ノ勝ルヲ以テ之レヲ知レバナリ、慧琳ノ音義巻二十六(第十葉右)ニ云ク、「衛世師論、此云ニ無勝外道論一也」ト、勝論ヲ無勝外道論ト訳セルハ他人之レニ勝ツ能ハザルノ義ナリ、

第二節 衛世師派ニハ衛世師經 Vaiseshika Sûtras 十巻アリ、ガウフ氏之レヲ英語ニ訳シテ The Vaiseshika Ap-

horisms of Kaṇâda ト題シ、千八百七十三年ベナーレス府ニ於テ発行シ、付スルニ、サンカラミスラ Sankara-misra 及ビジヤヤ、ナーラーヤナ、タルカパンチヤーナ、Jaya-nârâyana-tarkapanchânana 二氏ノ註釋ヲ以テセリ、支那訳ノ書ニハ勝宗十句義論一巻アリ、勝者惠月(エダツ)ノ造ル所ニシテ玄奘ノ訳ニ係ル、貞元釈教録巻十一(十八左)ニ云ク、「勝宗十句義論一巻見ニ翻經図一、慧月造、貞観二十二年五月十五日於ニ弘福寺翻經院一訳、沙門靈携筆受」ト、然レバ十句義論ノ訳本ハ靈携ノ筆受ニ係リ、紀元六百四十八年ニ成ル、惠月ハ勝宗ノ人ニテ蓋シ北印度ニ出ツ、明燈抄巻四(第十五葉)ニ云ク、「慧月於ニ雪山北一、作ニ十句義一、」ト、果シテ然ラバ其北天ノ人タルヲ知ルベキナリ、慧月ノ原音ハ或ハ末底戰達羅 Matichandra トシ或ハ戰達末底 Chandramati トシ、或ハ若那戰達羅 Jnânachandra トシ、或ハ單ニ戰達羅 Chandra トス、未ダ其何ヅレカ是ナルヤヲ詳ニセズ、〔アイテル氏オモヘラク、慧月ハ夫ノ紀元後六百二十五年ニ出家シタル亀茲国ノ王智月ト同一人ナラン(Handbook of Chinese Buddhism, 2nd ed. p. 54)ト、亀茲国ハ即チ Kharachar ニシテ東方トルキスタンニアリタル古代ノ王国ナリ、前ニ引用セル明燈抄ノ「慧月於ニ雪山北一」ト云ヘルヲ考合ハスレバ慧月ト智月ハ同一ノ印度語ヲ異譯セルモノナラン、〕惠月ハカナーダ氏ノ六句〔Shatpadârthâ〕ヲ増補シテ十句トナセリ、故ニ其書ヲ〔勝宗〕十句義論〔Vaiseshikanikâyadaśapadârtha-śâstra〕ト称スルナリ、因明論大疏巻三(第三十三葉右)ニ云ク、「十八部中上首名ニ戰達羅一此、云ニ惠月一、造ニ十句論一、此六加レ四」ト、当時勝論派ノ中、学派ヲ成セルモノ十八種アリタリト見ユ、決擇ニモ「頂月中間、宗諍交興、遂成ニ十八一」ト云ヘリ、慈恩ニ據レバ勝論派ニモ數論派ニモ各〻十八派アリタリ、唯識疏巻一末(第三十八葉左)ニ云ク、「此中數論及与ニ勝論一、各有ニ十八部異執競興一、」ト、又仝巻(第八十八葉左)ニ云ク、「勝論自部亦有ニ十八一」ト、惠月ハ其十八派ノ中ニテモ勝者トシモ最上ノ地位ヲ占メタリ、十句義論ニ若干ノ末書アリ、㈠慈恩大師曽テ十句論ノ抄ヲ作リ、十句義章〔或ハ云フ十句義論疏、〕ト名ク〔東

域傳燈目録ニ勝論十句義章一巻トナリ〕、然レモ其書傳ハラズ、或者曰ク、「唯有ニ一巻」、載ニ於東大寺圓超録一、嘗聞南京古藏、猶収ニ此章一、惜哉令レ飽ニ蠹口一」ト、果シテ然ラバ我邦尚ホ一本ヲ傳ヘタリ、然レモ未ダ其真否如何ヲ知ラズ、(二)一観虎喝氏ノ科註十句義論一巻アリ、寶暦十年（即チ千七百六十年）ノ刊行ニ係ル、挿註簡單ニシテ参考スルニ足ルモノナシ、(三)南都興福寺慈門院ノ沙門大同房基辨氏ノ十句義論釈二巻アリ、安永八年（即チ千七百七十九年）ノ刊行ニ係ル、頗ル参考スベキモノアリト雖モ、亦謬見ヲ混入スル〓往々之レアリ、〔後人動モスレバ痛ク基辨ヲ攻撃スレモ、氏ノ功亦没シテ決了スベカラザルナリ、〕(四)長谷ノ快道坊林常氏ノ十句義論決擇五巻アリ、寛政八年（即チ紀元千七百九十六年）ノ刊行ニ係ル、解説最モ詳〔密ニシテ議論亦甚ダ痛快、〕悉、或ハ妥当ナラザル見解ヲ交フト雖モ、又十句論ヲ研究スル者ノ座右ニ缺クベカラザル良書ナリ、〔唯其初〔始〕メニ精ハシクシテ終リニ略〔粗〕ナルハ惜ムベシ、〕(五)石川縣金澤市超雲寺清原公譚氏ノ冠註十句義論一巻アリ、明治二十三年ノ刊行ニ係ル、多クハ基辨ノ論釈ヲ引用シ間〻光嚴ノ説ヲ支ヘ、自家ノ説ハ寥々見ルベキモノナシ、且ツ本文幷ニ註トモニ誤脱多ク、最モ粗漏ナルモノナリ、(六)越前丹生郡風巻村淨明寺（真宗大谷派）ノ曉應（諱ハ嚴藏）ノ十句義論試記二巻アリ、天明四年（即チ千七百八十四年）ノ刊行ニ係ル、難解ノ句ニ逢フ毎ニ〔深ク真意ノ存スル所ヲ探リモセズシテ、〕妄ニ本文ノ誤脱若クハ衍文ヲ臆測スルノ弊アリト雖モ、亦時ニ参考スベキモノナキニアラザルナリ、(七)勝宗十句義論筆記（本写）一巻アリ、眞宗大谷派ノ講師易行院法海ノ講説ヲ筆記セモノナリ、(八)釈寶雲（理門論新疏ノ作者）ノ十句義聞記一巻アリ、天保十五年ノ刊行ニシテ門人稲溪密雲ノ筆受ニ係ル、〔文辞簡單ニシテ義理明暢、十句論末書中ノ佳本ナル〓疑ナキナリ、〕(九)南山釈迦門院光嚴ノ勝宗十句義論釈傍観録（本写）一巻アリ基辨ノ論釈ヲ批評セシモノナリ、(十)勝宗十句義論記（本写）一巻アリ、〔是レ〕亮惠助教ガ慶應三年大和國八木驛明教寺ニ於ケル講説ノ筆記ナリ〔ニシテ大抵寶雲ノ説ヲ敷衍スルモノナリ、〕

(十)加藤秀旭ノ勝論宗十句義講演アリ、佛教第五十七号以下ニ連載アリ、是等皆参考ニ供スルニ足ル〔勝宗十句義論叢林（写本二巻）快道坊林常著、勝宗十句義論記（写本二巻）僧法住著、十句義論玄談一巻桂潭著〕、惠月傳フル所ノ十句義論ハガウフ氏ノ訳本ト比スレバ甚ダ簡短ナル要領ニ過ギザルナリ、餘リニ簡短ニ失シ、明瞭ヲ缺クノ弊ナキニアラズ、佛者モ古来此書ヲ以テ真ニ難解ノ書トナス、沙門盛範曰ク、「大抵勝論之為レ宗也、自有為ニ生本一、無我為ニ浄道一、由レ斯観ニ此論一、相詮自有一、心遊ニ言外一、豈易レ解哉」（十句義論釈叙）ト、環靈モ亦曰ク「此論也、文義交錯、難レ解難レ得（十句義論試記叙）ト、然レモ此書ハ勝論派ノ学説ヲ知ルニ切要ナルモノナリ、右ノ外尚ホ唯識述記一末（九右三十）前記中（左十八）後記中（左十八）了義燈二本（左三十）演秘一末（右十）義蘊一（二右四十）義演一下（右廿七）百論疏上中（右十七）因明疏三（右卅三）瑞源記四（左右六十五）〔仝巻六（一右五十）〕倶舎光記五（左六）宝疏五（左六）華厳玄談八（右十）倶舎惠暉一（右十八）等モ亦勝論派ノ哲学ヲ研究スルニハ参照セザルベカラザルナリ、

第三節　衛世師派ノ鼻祖カナーダ氏ハ六句即チ六諦ヲ以テ範疇 Padârthas トス、第一ヲ実 dravya ト云フ、即チ実体ナリ、第二ヲ德 guṇa ト云フ、即チ性質ナリ、第三ヲ業 karman ト云フ、即チ発動若クハ作用ヲ謂フナリ、以上ノ三諦ハ佛家ノ躰相用ニ当ルモノナリ、第四ヲ大有性 Sâmânya ト云フ、即チ普通性ナリ、第五ヲ同異性 Viśesha ト云フ、即チ特殊性ナリ、（十句論ニ之レヲ俱分ト云フ、）第六ヲ和合性 Samavâya ト云フ、即チ附着性ヲ謂フナリ、カナーダ氏ハ此六句ヲ以テ哲学織組ヲ建立セリ、

六句
- (一) 実 dravya, Substanz ……陁羅驃（主諦）〔或ハ又所依諦ト云フ〕
- (二) 德 guṇa, quality ……求那（依諦）
- (三) 業 Karman, action ……羯摩（作諦）

(四) 大有性 Sâmânya, generality ……三摩若（惣相諦）
(五) 同異性 Viśesha, particurality……毗尸沙（別相諦）
(六) 和合性 Samavâya, inhesion……三摩婆夜（無障碍諦）

然ルニ後人之レニ加フルニ第七句ノ無説 abhava ヲ以テス、即チ存在否定ノ義ナリ、第七句ハ後人ノ加フル所ニ係ルヿハジヤヤ、ナーラーヤナ氏ガ衛世師經〔第一巻第一章〕第四章〔節〕ノ注ニ In this place there is also mention of six categories spoken of as existing, but in reality non-existence is also implied by the sage as another category トアルニヨリテ之レヲ知ル、因明大疏巻三（第三十三葉右）ニ惠月出デ、六句ニ異、有能、無能、無説ノ四句ヲ加ヘテ十句トセリトス、然レモ此説妥ナラズ、獨リ無説ノ一句ハ已ニガウフ氏ノ訳ニ係ル衛世師經ノ注ニモ見ユルガ故ニ何人カ惠月ニ先チテ加ヘタルヿ疑ナシ〔無説ノ一句ハ Annambhaṭṭa ナルモノ之レヲ加フト云フ、（佛教小史四十六頁ヲ見ヨ）〕惠月ハ有能、無能ノ二句ヲ加ヘ、同異ヲ分チテ異ト俱分トセリ、俱分ハ即チカナーダ氏ノ同異トナリ、然レバ惠月ノ真ニ加ヘタル三句ニ過ギザルガ如シ、

第四節 六句ハ一切萬物ニ遍通スル六種ノ範疇ニシテ、アリストテレス氏ガ十種ノ範疇ヲ數ヘ、カント氏ガ十二ノ範疇ヲ擧ゲタルト其趣ヲ同ウス、即チ書ノ洪範ニイハユル洪範九疇ノ類ナリ、六句ノ中実德業ノ三句ハ実体、性質、作用ナルガ故ニ其意義如何ニヨリテハ、世界ノ諸現象ヲ包含シ盡クスヲ得、然レモ三句ノ中ニテモ実ハ萬物ノ根基ニシテ德業ノ如キハ之レガ附属ニ過ギズ、〔（衛世師經、第一巻第一章第十五節）〕若シ実ナケレバ德業モ依托スル所ナカルベシ、決擇ニ云ク「実諸法主、故住ニ冠首」、德業二種、雖ニ俱実具」、細塵有レ差、故顕ニ兄弟」ト、実ハ自存的、德業ハ依存的、德業ハ單ニ実ニヨリテ発現スルヲ得、然レモ亦其間辨別スベキモノアルガ故ニ分チテ三句トナスモノ

ナリ、然ルニ実德業ノ三句ハ已ニ世界ノ諸現象ヲ包含シ盡クスガ故ニ此外尚ホ大有、同異、和合ノ三性ヲ設クルノ必用ナキガ如シ、然レモ其実決シテ然ラズ、実德業ハ一切ノ現象ヲ組織スレモ、如何セン、大有性ヲ竢タザレバ永續スル能ハザルヲ、大有性ハ実德業ヲシテ永續セシムル原能力カナリ、以テ勝論派ガ時間的ニ萬有ノ実在ヲ説カズシテ單ニ空間的ニ之レヲ説クヲ知ルベキナリ、次ギニ同異性ハ実德業ヲシテ或ハ同類或ハ異類ニ分別セシムル原動カナリ、実德業モ此力ヲ竢タザレバ盡ク混一シテ無差別トナラン、以テ勝論派ガ分解ニヨリテ異体論ヲ立ツルヲ知ルベキナリ、然レモ又和合性ノ実德業ヲシテ相調和セシムルナケレバ諸現象ハ分離シテ相拒絶セン、和合性ハ同異性ニ反シテ調和ヲ来タス所ノ原能力ナリ、以テ勝論派ガ異体論ヲ基トシテ萬物ノ和合ヲ説クヲ知ルベキナリ、此ノ如クニシテ勝論派ハ永續分別、調和ノ三種ノ性質ハ德中ノモノニアラズシテ反リテ実德業以外ニアリテ此三句ヲ規定スル無形ノ原能力トセリ、然レモ詳細ニ考察シ来レバ此彙類ハ決シテ充分ナリト謂フベカラズ、若シ一切ノ現象ヲ包含セント欲セバ數量若クハ因果ヲモ範疇トセザルベカラズ、勝論派ハ數量ヲ德中ノモノトスレモ、六句十句、皆數量ヲ離ルヽ能ハザレバ別ニ之レガ為メニ一句ヲ設ケザルベカラズ、數量ハ單ニ九実ニ就イテ之レヲ言フベキ而已ナラズ、德其レ自身ニモ數量アリ、甚シキハ無説ニモ數量アリ、數量ハ此ノ如ク萬物ニ遍通セルヲ以テ一ノ範疇トナスベキニ、事此ニ出デザルハ其過失ト云フヨリ外之レナキナリ、若シ又一々原能力ヲ求メバ、行動ノ原能力、變化ノ原能力等ヲモ加フベキ必要ヲ生ゼン、假令ヒ業ハ動作ナルベキモ、物ヲシテ動作セシムベキ原能力ナカルベカラズ、變化ハ業ニヨリテ起ルベキモ、亦物ヲシテ變化セシムベキ原能力ナカルベカラズ、然レモ今日ノ哲學的思想ヲ以テ当時ノ事ヲ律スベカラズ、但シ当時ニアリテ已ニ此ノ如キ範疇ヲ立ツベキノ考ヘアリタルハ歴史上甚ダ興味アル事ニテ、又其アリストテレス、カント諸氏ト同ジク範疇ヲ立ツルノ必要ヲ感ジタルモ一奇ト謂フベシ、若シ其当否如何ヲ言ハヾアリストテレス、カ

ント二氏ノ範疇モ缺點ナシトセザルナリ、殊ニアリストテレス氏ノ範疇ハミル氏ガ云ヘル如ク同時ニ有餘不足redundant and defective ノ弊ヲ免レザルナリ、カント氏ノ範疇ニ就イテハショッペンハワー氏評シテ、其中唯〻因果ノミ採用シ、其他ノ十一ハ皆窓ノ外ニ放棄スベシ Von den Kategorien elf zum Fenster hinauswerfen ト云ヘリ、

第五節 第一句ノ実ハ分チテ九種トス、第一ハ地、第二ハ水、第三ハ火、第四ハ風、第五ハ空、第六ハ時、第七ハ方、第八ハ我、第九ハ意、今原語ヲ付シテ之レヲ表ニスレバ

実 dravya, substance
- (一) 地 pṛthivî, earth.
- (二) 水 âpas, water.
- (三) 火 tejas, light.
- (四) 風 vâyu, air.
- (五) 空 âkâśa, space.
- (六) 時 kâla, time.
- (七) 方 dis, direction.
- (八) 我 atman, soul.
- (九) 意 mamas, mind.

此分類ノ極メテ不充分ナルハ一目瞭然タリ、地、水、火ハアレモ金木ハ之レヲ脱シ、時、方、我、意ノ如キ虚形ノモノヲ実物ト同一視セリ、然ルニ衛世師ハ一切ノ実体ハ此九種ヨリ多カラズ、又少カラズ、盡〻ク此中ニ包含セラルト思惟セリ、衛世師派ニアリテハ九種ノ外別ニ萬有実体アリテ存シ、九種ノ如キモ唯〻其萬有実体ノ発現ニ過ギズト云フニアラズ、凡ソ実体ハ此九種ニ限リ、此外亦実体ト称スベキモノアルヿナキナリ、九実ノ中空時方我意ノ五ハ唯

一ノ存在ナレモ、其他ハ皆多物ニシテ各〻一種類ヲ成ス、ジヤヤ、ナーラーヤナ氏曰ク、Among these nine divisions of substance, ether [that is space], time, and space [that is direction] do not form any class since they have only a single existence, but they form classes. 〔衛世師經第一巻第一章第五節ノ註〕此ニ我意ノ二実ヲモ列スベキカ挙、唯識疏一末（四十六左）ニ云ク、「空時方我意五是一物、地水火風四、是多物、」ト今姑ク唯識疏ニ據ル、又九実ノ中地水火風ハ原子ヨリ成ル、之レヲ四大ト称ス、萬物ハ盡〻ク此四大ヨリ成ル、四大ハ或ハ常住、或ハ無常ナリ、其集合ハ無常ナレモ、其原子ハ永遠ナリ、今左ニ九實ヲ説明セン、

第一、地ハ原語「プチチヴヰー、」色、味、香、觸アリ、

第二、水ハ原語「アパス、」色、味、觸及ビ液潤アリ、

第三、火ハ原語「テジヤス、」色、觸アリ、

第四、風ハ原語「ヴーユ、」唯〻觸ノミアリ、

第五、空ハ原語「アーカーサス、」唯〻声ノミアリ、地水火風ノ四大ニ声アリトセズシテ、獨リ空ニ声アリトスルヿ甚ダ奇ナリ、声ハ必ズ空間ニ生ズルヲ以テ空ノ特有トセルナラン、ガウフ、モニエル、ウヰリヤムス諸氏皆第五ヲ精氣 ether ト訳セルハ蓋シ誤ナリ、〔バネルゼア氏ハ「アーカーサ」ヲ精氣ト訳スルヿノ非ナルヲ云ヘリ、モニエル、ウヰリヤムス氏モ少シク訳語ノ当否ヲ疑ヒシト見エ、「アーカーサ」ハ寧ロルクレチウス氏ノ「イカネ」即チ皆無ノ空間ニ類似スルヲ云フ（Indian Wisdom, p. 93, Note, 2）

第六、時ハ原語「カーラ、」是レ彼此、俱不俱、遲速ヲ認識シ得ルノ因ナリ、

第七、方ハ原語「ヂス、」是レ東南西北等ヲ認識シ得ルノ因ナリ、ガウフ、モニエル、ウヰルリヤムス諸氏ガ訳シ

テ空間 space トスルハ蓋シ誤ナリ、第五已ニ空ヲ云ヘバナリ、

第八、我〔百論ノ疏ニハ我ヲ神ニ作ル〕ハ原語「アートマン、」〔即チ精神ノ義〕是レ覚、楽、苦、欲、瞋、勤勇、行、法、非法等ノ和合ノ因縁トナリテ智識ヲ生ズルモノナリ、

第九、意〔百論疏ニ意ヲ心ニ作ル〕ハ原語「マナス、」是レ覚、楽、苦、欲、瞋、勤勇、行、法、非法ノ和合ノ因縁ニアラズシテ智識ヲ生ズルモノナリ、九徳ヲ和合スルハ我ニシテ意ハ之レヲ和合スルヲ得ズ、然レモ亦其智識ヲ生ズルハ我ト異ナラザルナリ、十句論釈（巻上十四左）ニモ「我起レ智時、必我意合」ト云ヘルガ如ク、智識ハ我ト意ノ合シテ生ズル所ト見做スヲ得ベキナリ、我ト意ノ二ニ就イテハ古来異論紛々タレモ、今一々詳述スルニ暇アラザルナリ、」

九実ノ中〔ニ属スル特殊ノ性質ヲ六項ニ分チテ説明セン、(一)〕地水火風意ハ動作アリ、質礙アリ、勢用アリ、彼此体アリ、他ノ四実ハ之レニ反ス〔(二)〕九実ハ皆性質ヲ具ス、即チ有徳ナリ、九実ハ各実体ニシテ和合性ノ和合スル所ナリ、故ニ之レヲ和合因縁 coinherent cause〕トス、九実ハ実性ヲ具シ、總別ノ俱分アリ、別ニ又異性アリテ徳業ト差別ヲ成ス、且ツ有能性アルガ故ニ各自果ヲ造リテ己レノ能力ニ違ハズ、然レモ又無能性アルガ故ニ自果ヲ造リテ餘果ヲ造ラザルヲ得、〔(三)〕地水火風ハ有觸、能ク因トナリテ果ヲ生ズル故ニ之レヲ能造ノ実トス、其因ハ其果ト体性ヲ同ウス、故ニ之レヲ共トス、然ルニ空時方我意ハ之レニ反シテ無觸、能ク果ヲ生ズルヿナキモ、亦実徳業ノ因トナル、然レモ唯〻因トナリテ果ヲ生ゼズ、故ニ之レヲ不共トス、〔(四)〕地水火ハ有色、有可見、有對眼、餘実ハ之レニ反ス、〔(五)〕空時方我意ハ常ナリ、地水火風ハ或ハ常或ハ無常、其極微ハ常ナレモ、子微以上ハ無常ナリ、子微以上ハ別ニ実アリテ之レガ因タルガ故ニ有実〔五実ト〕極微ハ然ラザルガ故ニ無実、子微以上ハ有細分ニシ

テ分解スベク、〔五実ト〕極微ハ無細分ニシテ分解スベカラズ、子微以上ハ根本的能造ニアラズ、即チ〔根本的能造ニアラズ、即チ果ナルガ故ニ〕非因ナリ、然レモ父母ノ因ト相違セザルガ故ニ之レヲ非因不相違トス、〔五実ト〕極微ハ能造ノ実即チ因ナリ、然レモ亦果ト相違セザルガ故ニ之レヲ因不相違トス〔聞記（三十六右）ニ云ク「因不相違、五実極微、体是因、不相違、云云不相適与レ果不二違背一、俱時有、」ト、解シ得テ明瞭ナリ、〕子微以上ハ邊際アリテ地水火風相異ナル、然ルニ〔五実ト〕極微ハ固体ニシテ一切處ニ遍ク、邊際ナシ、然レモ亦相異ナルアリ、前者ハ邊有異ニシテ後者ハ非邊有異、〔聞記（三十六右）ニ云ク「極微意実、有邊際、如何、答、雖レ有二邊義一無二有異義一、云云故非二邊有異」ト、極微ト意実ヲ五空時方我ト同ジク非邊有異トスルモノ蓋シ此ニアルナリ、〕又子微以上ハ不円、〔五実ト〕極微ハ圓、〔（六）〕地水火風空ハ鼻、舌、眼、膚、耳ノ感覚ヲ生ズルモノナルユヱ、之レヲ五根トシ〔ス、即チ鼻根ハ地、味根ハ水、眼根ハ火、皮根ハ風、耳根ハ空、其〕他ノ四実ハ之レヲ非根トス、今之レヲ列擧スレバ、

第一、地……根、有動作、有質礙、有勢用、有彼此体、有徳、和合因縁、有実性、有異、與果不相違、有待因、有觸、能造実、共、有色、有可見、有對眼、亦常亦無常、

第二、水……仝上、

第三、火……仝上、

第四、風……根、有動作、有質礙、有勢用、有彼此体、有徳、和合因縁、有実性、有異、與果不相違、有待因、有觸、能造実、共、無色、無可見、無對眼、亦常亦無常、

第五、空……根、無動作、無質礙、無勢用、無彼此体、有徳、和合因縁、有実性、有異、與果不相違、有待因、無觸、実徳業因、不共、無色、無可見、無對眼、常、

第六、時……非根、無動作、無質礙、無勢用、無彼此体、有德、和合因縁、有実性、有異、與果不相違、有待因、無觸、実德業因、不共、無色、無可見、無對眼、常、

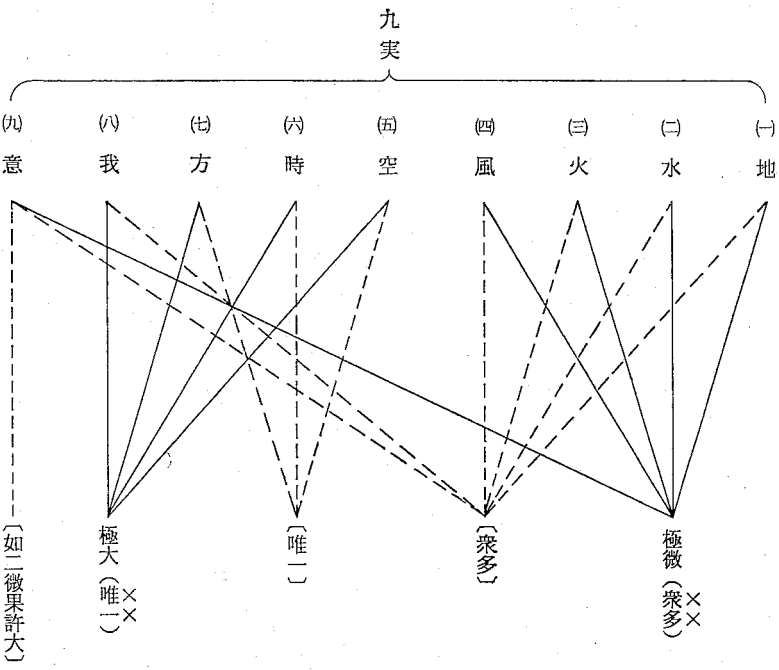
第七、方……仝上、

第八、我……仝上、

第九、意……非根、有動作、有質礙、有勢用、有彼此体、有德、和合因縁、有実性、有異、與果不相違、有待因、無觸、実德業因、不共、無色、無可見、無對眼、常、

地水火風ノ或ハ常、或ハ無常ナルヿモ已ニ説明セリ、今之レヲ表ニスレバ、左ノ如シ、

四大
- 父母極微
  - (一) 常
  - (二) 無実
  - (三) 無細分
  - (四) 因不相違
  - (五) 非邊有異
  - (六) 圓
- 子微以上
  - (一) 無常
  - (二) 有実
  - (三) 有細分
  - (四) 非因不相違
  - (五) 邊有異
  - (六) 不圓



〔編者注。破線は後の加筆。意と極微は実線で結ばれていたが、後に打ち消している。なおこの他に表と引用文が書き加えられているが、その全てを抹消しているので、後に「注記」で収録することにした。〕

九実ノ中極微ヨリ成ルモノハ地水火風ノ四大ノミナラズ、又意モ極微ヨリ成ル、故ニ此五実ハ皆衆多ナリ、之レニ反シテ空時方我ハ極大ニシテ何ヅレモ唯一ナリ、今之レヲ表ニスレバ〔前頁の九実の表を参照、編者注〕空時方我ト意ノ異同ハ左ノ如シ、

〔編者注。このあとに表があるが全部を抹消しているので後の「注記」において収録することにした。〕

第六節 六句ノ第二タル徳ハ分チテ十七種トス、(十句論ニハ二十四種トス、)第一ハ色、第二ハ味、第三ハ香、第四ハ觸、第五ハ數、第六ハ量、第七ハ別、体第八ハ合、第九ハ離、第十ハ彼体、第十一ハ此体、第十二ハ覚、第十三ハ樂、第十四ハ苦、第十五ハ欲、第十六ハ瞋、第十七ハ勤勇、是レナリ、之レヲ表ニスレバ、

徳 guṇa, qualities

(一) 色 rupa, colour.
(二) 味 rasa, taste.
(三) 香 gandha, smell.
(四) 觸 sparśa, touch.
(五) 數 sankhyâḥ, numbers.
(六) 量 parimṇaâni, extensions.
(七) 別体 pṛithaktva, individuality.
(八) 合 saṃyoga, conjunction.
(九) 離 vibhâga, disjunction.
(十) 彼体 paratva, priority.
(十一) 此体 aparatva, posteriority.

(十二) 覚 buddhayaḥ, intellections.
(十三) 樂 sukha, pleasure.
(十四) 苦 duḥkha, pain.
(十五) 欲 icchâ, desire.
(十六) 瞋 dvesha, aversion.
(十七) 勤 prayatnaḥ volitions.

是等十七種ノ性質ハ決シテ物〔我〕ノ〔主観客観ノ〕アラユル性質ヲ擧盡クシタルモノニアラズ、又性質ニアラザルモノヲモ性質トシテ算入セリ、礙性、惰性、可滅性、不可滅性等ノ如キハ皆之レヲ脱逸シ、合離彼此ノ如ク、單ニ物ノ関係ニシテ其性質ニアラザルモノヲモ含有シ、中ニハ數ノ如ク唯〻性質〔徒ニ德〕ニ属スル而已ナラズ、又実業等ニモ均シク属スルモノモアリ、要スルニ、衛世師ガ十七種ノ性質トシテ分類スルハ甚ダ不充分ナルモノニシテ、今日ヨリシテ之レヲ見レバ其缺點多キ「決シテ蔽フベカラザルナリ、サンカラミスラ氏オモヘラク、十七種ノ外尚ホ七種アリ、其名本文ニ見エザルモ、亦含蓄スル所ナリ〔[Sûtra, I, 1.1]〔衛世師經第一巻第一章第六節ノ經〕ト、何ヲカ、七種トナス、曰ク、重体、gurutva, gravity 第十八德ニ当ル、曰ク、液体、dravatva, fluidity 第十九德ニ当ル、曰ク、潤、sneha, viscidity 第二十德ニ当ル、曰ク、行、saṇskâra〔self-restitution〕第廿一德ニ当ル、曰ク、法、merit 第廿二德ニ当ル、曰ク、非法、demerit 第廿三德ニ当ル、曰ク、声、sound 第廿四德ニ当ル、十句論ニモ二十四德ヲ擧グ、是レ全ク後人ノ規定スル所ニヨルナリ、假令ヒ此七德ヲ加ヘテ、合シテ廿四德トスルモ、未ダ決シテ一切ノ性質ヲ網羅シタルモノニアラズ、液体ヲ擧グル以上ハ凝体若クハ固体ヲ擧ゲ、潤ヲ以テ一德トスル以上ハ燥ヲモ一德ト

シ、冷熱等ヲモ加入セザルベカラズ、行ノ如キハ寧ロ業即チ作用ニ属スルモノニテ性質トシテ徳中ニ算入スベキニアラザルナリ、

今左ニ廿四徳ヲ説明セン、

第一、色 rupa……視覚ノ感ズル所ナリ、

第二、味 rasa……味覚ノ感ズル所ナリ、

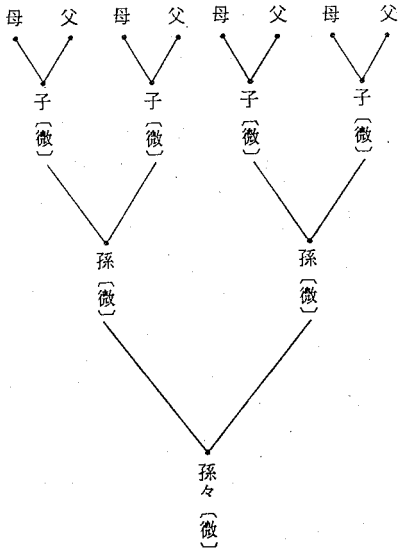
第三、香 gandha……嗅覚ノ感ズル所ナリ、

第四、觸 sparśa……觸覚ノ感ズル所ナリ、

第五、數 sankhyâh……一、二、等ノ感覚ヲ惹起スルモノナリ、數ハ徳業ノ二句ニモ属スベキニ、獨リ実ノミニ属ストスルハ、実ハ主ニシテ徳業ハ其具タルガ故ニ已ニ実ニ属ストスレバ其徳業ニモ属スルヿ言ヲ要セザルナリ、

第六、量 parimânâni…大小長短等ノ形量ノ感覚ヲ惹起スモノ、即チ微体、大体、短体、長体、圓体、等ヲ謂フ、

(イ)微体ハ父母ノ二極微ノ果(即チ子微)ノ微ナルヲ謂フ、衛世師派ハ原子論ヲ主張シ、全世界ハ地水火風(或ハ意ヲ加フ)ノ四大ノ原子ノ結合ヨリ成ルトス、其説ニヨレバ原子 Aṇus ハ極微ナリ、二箇ノ極微、和合シテ第三ノ微ヲ生ズ、二箇ノ極微ハ父母ニシテ第三ハ子微 Dvy-anuka ナリ、子微ハ父母ノ極微ノ外ニ新ニ生ズルニアラズ、二箇ノ極微ノ未ダ合セザルヲ父母トシ、已ニ合シテ一実トナリタルヲ子微トス、然レドモ父母子ノ三位ノ別アルガ故ニ子微ノ位ハ第三微ナリ、二箇ノ子微合スレバ孫微 Trasa-reṇu ヲ生ズ、然ルニ二箇ノ子微ハ六微ナリ、故ニ孫微ハ彼ノ六微ニ對シテ第七微ナリ、二箇ノ孫微合スレバ孫々微ヲ生ズ、然ルニ二箇ノ孫微ハ十四微ナリ、故ニ孫々微ハ彼ノ孫微ニ對シテ第十五微ナリ、其図左ノ如シ、



此ノ如クニ地水火風ノ原子種々ニ結合シテ禽獣草木乃至全世界ヲ構造セリ、原子ノ數ハ其未ダ世界ヲ構造セザル前モ、其已ニ世界ヲ構造セルノ後モ同一ナリ、即チ不増不減ナリ、然ルニ唯〻其原子ノミハ之レヲ極微ト云ヒ、子微以上ニ至リテハ單ニ之レヲ微ト称シ、極微ト云ハズ（独リ子微ハ最微ト云フヿアリ）極微ハ常住ニシテ子微以上ハ無常ナリ、世界ノ成ルトキモ壞ルトキモ極微ハ毫モ變ズルヿナシ、其變ズルモノハ極微ノ結合ニ外ナラズ、極微ト子微ハ表現セズ、之レヲ非現境トス、唯〻孫微以上ハ表現ス、之レヲ現境トス、現境ハ五官ノ感覚ヲ惹起スヲ謂ヒ、非現境ハ之レニ反スルヲ謂フ、勝論派ニ於テ、父母ノ極微及ビ子微ノ一ニシテ三、三ニシテ一ナルハ実ニ三位一体ヲ意味スルナリ、此ノ如キ三位一体ノ思想ハ元ト人類生殖ノ法ヲ自然界ニ應用シタルモノナラン、

(ロ)大体ハ孫微以上ノ多体ノ積集差別ノ大ナルヲ謂フ、孫微以上ヲ多体トス、彼ニ合セル十五ノ極微ト此ニ合セル十五ノ極微ト相合シ、此ノ如クニシテ多体積集シテ大体ヲ成ス、孫微ヨリ大地ニ至ルマデ皆多体ノ積集ナリ、積集ノ生ズル所其類衆〔多〕ナリ、故ニ之レヲ差別ト云フ、

(ハ)短体ハ父母ノ二極微ノ果（即チ子微）ノ短ナルヲ謂フ、衛世師派ニテハ原子即チ極微ハ円体トスレドモ、子微ニハ大体ニ對シテ微体トシ、長体ニ對シテ短体トス、大体、長体ハ子微ニ之レナク、唯〻孫微以上ニアルノミ、

(ニ)長体ハ孫微以上多体ノ積集差別ノ長ナルヲ謂フ、

(ホ)円体ニ二種アリ、一ハ極微、一ハ極大、（甲）極微ハ地水火風ノ原子ノ最小ナルヲ謂フ、（乙）極大ハ空時方我ノ最大ナルヲ謂フ、或ハ又遍行等ノ名アリ、遍行ハ allpervading ノ義ナリ、

第七、別体 pṛithaktva……事物ノ彼レト此レト相互ニ区別セル性能ヲ謂フ、即チ個体性ナリ、〔決擇巻二（三十右）ニ云ク「異句唯令ニ実異二德等一、亦於二実中一、更令レ有レ異、此唯実中令レ有二差別一、故成二不同一、若爾應レ同二俱分句義中其別異之邊一、謂不レ同レ彼、設雖二最細別同別異一、必有二同類一、令二彼一同一、令二餘法別一、由レ有二如レ是亦同亦異一、故名二同異一、此於二彼同一、更辨二差別一、復彼通二貫諸実德業一、此唯依レ実、是故不レ同、〕

第八、合 Saṃyoga……本来離レタル二物ガ初メテ迎来ル性能ヲ謂フ、此レニ三種アリ、（甲）一業ヨリ生ズルモノ、（乙）俱業ヨリ生ズルモノ、（丙）合ヨリ生ズルモノ、其一業ヨリ生ズルモノトハ有動作ト無動作ヨリ生ズルヲ謂フ、例ヘバ手ヲ以テ鼓ヲ打ツガ如ク、手ノ有動作ト鼓ノ無動作ヨリ生ズル所ノ合ナリ、其俱業ヨリ生ズルモノトハ、二種ノ有動作ニヨリテ生ズルヲ謂フ、例ヘバ拍手ノ如ク、両手ノ有動作ヨリ生ズル所ノ合ナリ、其合ヨリ生ズルモノトハ、合ヨリ生ズルノ合ニシテ無動作ノ多実（即チ地水等ノ原子）ガ幾多ノ結合ヲ生ズルトキ、其結合ガ空時

方我ト合スルヲ謂フ、例ヘバ芽ノ生ズルガ如ク、動作アルヿナクシテ空時方ト合スルナリ、

第九、離 vibhâga……本来相合セル二物ガ分レ去ル性能ヲ謂フ、此レニ三種アリ、(甲)一業ヨリ生ズルモノ、(乙)俱業ヨリ生ズルモノ、(丙)離ヨリ生ズルモノ、其一業ヨリ生ズルモノ、及ビ俱業ヨリ生ズルモノ共ニ前者ニ反スル動作ヲ謂フ、其離ヨリ生ズルモノトハ例ヘバ実ガ風雨等ノ因ニヨリテ地上ニ墜チ、終ニ壊滅シテ空時方ト離スルヲ謂フ、

第十、彼体 paratva……同一ノ空間時間ヲ占ムル所ノ二種ノ客観ノ近×〔遠〕ナル感覚ヲ惹起ス性能ヲ謂フ、

第十一、此体 aparatva……同一ノ空間時間ヲ占ムル所ノ二種ノ客観ノ遠×〔近〕ナル感覚ヲ惹起ス性能ヲ謂フ、

第十二、覚 buddhayaḥ……凡ソ事物ヲ悟ルヲ謂フ、此レニ二種アリ、(甲)現量、(乙)比量、是レナリ、現量ハ直接ニ吾人ノ五官ニヨリテ覚ルヲ謂フ、例ヘバ此物ハ白シ、此×〔彼〕物ハ赤シト覚ルガ如キハ現量ナリ、比量ハ間接ニ比較推度ニヨリテ覚ルヲ謂フ、此レニ二種アリ、(イ)同ヲ見ルガ故ニ比ス×〔種比量〕ト(ロ)同ヲ見ザルガ故ニ比ス×〔異種比量〕ト、是レナリ、同ヲ見ルガ故ニ比ストハ、現ニ見ル所ノ物ニヨリテ未ダ見ザル所ノ同種ヲ知ルヲ謂フ、例ヘバ此處ノ櫻花ヲ見テ彼處ノ櫻花ヲ知ルガ如キ、是レナリ、同ヲ見ザルガ故ニ比ストハ、現ニ見ル所ノ物ニヨリテ未ダ見ザル所ノ異種ヲ知ルヲ謂フ、例ヘバ烟ヲ見テ火ヲ知ルガ如キ是レナリ、

第十三、楽 sukha……適悦スルヲ謂フ、

第十四、苦 duḥkha……逼惱スルヲ謂フ、

第十五、欲 icchâ……〔声觸色味香ノ〕五覚ヲ希求スルヲ謂フ、

第十六、瞋 dvesha……〔声觸色味香ノ〕五覚ヲ損害スルヲ謂フ、

第十七、勤勇 prayatnâḥ……意志発動ヲ謂フ、以上十七德ハ迦那陀ノ定ムル所ニ係ル、〔サンカラ、ミスラ及ビ〕惠月ハ尚ホ之レニ重体、液体、潤、行、法、非法、声ノ七德ヲ加ヘテ廿四德トス、左ニ其七德ヲ説明セン、

第十八、重体 gurutva……物ノ墜堕スル性能ヲ謂フ、即チ今所謂重力〔是レ〕ナリ、

第十九、液体 dravatva……物ノ流注スル性能ヲ謂フ、

第二十、潤 sneha……物ノ濕潤スル性能ヲ謂フ、

第廿一、行 sanskâra……物心ノ行為作用ヲ生ズル性能ヲ謂フ、然ルモ業句ノ行ト同ジカラズ行ニ就イテハ多説アリ、第一ハ造作ノ義トスルモノ、(倶舎一巻十一左)、第二ハ遷流ノ義トスルモノ、(對法疏二巻口右)、第三ハ因ノ義トスルモノ、(光記一巻卅九左)、第四ハ業ノ義トスルモノ、(倶舎九巻十右)、第五ハ事用ノ義トスルモノ、(倶舎三十巻八左)、第六ハ分別ノ義トスルモノ、(婆沙百三十九巻七右)、第七ハ自己恢復 Self-restitution ノ義トスルモノ、(Gough, Vaisheshika Aphorisms, p. 8) 第八ハ自己再生 Self-reproduction ノ義トスルモノ、(Monier Williams, Indian Wisdom, p. 79) 然レモ此ニ行ト云フハ行動ノ義〔為作用ヲ生ズル性能ヲ謂フ〕ナリ、此レニ二種アリ、(甲) 念因ト (乙) 作用〔因〕ト、是レナリ、念因ハ他ノ行動ヲ生ズル所ノ念慮〔即チ精神ノ活動力〕ヲ謂ヒ、作用〔因〕ハ他ノ行動ヲ生ズル所ノ作用〔即チ作用ノ活動力〕ヲ謂フ、〔作因ハ或ハ又勢用ト称スルコアリ、念因ハ動機 motive ニシテ作因ハ agent, die wirkende Kraft ナリ〕

第廿二、法ハ善事ヲ謂フ、此レニ二種アリ、一ハ能轉、一ハ能還、能轉ハ劣身ヲ轉ジテ勝身ヲ得セシムルヲ謂ヒ、能還ハ顚倒ヲ離シテ正智ニ還ラシムルヲ謂フナリ、

第廿三、非法ハ不善ヲ謂フ、

第廿四、声ハ唯〻耳ノミ取ル所ノ感覚ヲ謂フ、

実ハ物ノ本質実体ヲ謂ヒ、德ハ物ノ本質実体ニ属スル所ノ性質ヲ謂フ、故ニ德ハ外面ニ発表スル所ノ現象ニシテ実ハ此現象ノ基本タリ、然レ𪜈一切ノ実ハ同一ノ德ヲ有スルニアラズ、或ル性質ハ或ハ実体ノミニ属シ、他ニハ属セズ、十句論ニヨリテ之レヲ類別スレバ左ノ如シ、

九実

(一) 地……十四德　色、味、香、觸、數、量、別体、合、離、彼体、此体、重体、液体、行
(二) 水……十四德　色、味、觸、數、量、別体、合、離、彼体、此体、重体、液体、潤、行
(三) 火……十一德　色、觸、數、量、別体、合、離、彼体、此体、液体、行
(四) 風……九德　數、量、別体、合、離、彼体、此体、觸、行
(五) 空……六德　數、量、別体、合、離、声
(六) 時……五德　數、量、別体、合、離
(七) 方……五德　仝上
(八) 我……十四德　數、量、別体、合、離、覚、楽、苦、欲、瞋、勤勇、法、非法、行
(九) 意……八德　數、量、別体、合、離、彼体、此体、行

二十四德ノ中種々ナル差別ノ存スルアリ、今左ニ之レヲ説明セン、

第一、現境ト非現境ノ別アリ、現境ハ孫微以上ノ結合ニシテ吾人ノ五官ニ觸ルヽ現象及ビ我意ノ相合シテ知覚スル所ヲ謂フ、非現境ハ吾人ノ五官ニ觸レザル極微ト子微ヲ謂フ、色味香觸ノ四德ハ或ハ現境或ハ非現境ナリ、何ントナレバ此四德ハ地水火風ノ四大ニ属シ、四大ノ極微及ビ子微ニアリテハ知覚スベカラザルモ、孫微以上ニアリテハ知覚スベケレバナリ、數、量、別体、合、離、彼体、此体、液体、潤、重体、勢用、〔即チ行ノ作因〕ノ十一德モ亦色味香

觸ノ如ク同一ノ理由ニヨリ、或ハ現境或ハ非現境ナリ、獨リ声ハ盡ゝク現境ナリ、〔声ニ合ヨリ生ズルモノト、離ヨリ生ズルモノト、声ヨリ生ズルモノト、三種ノ別アリト雖モ、一トシテ聽覚ノ所取、神我ノ現量ニアラザルハナキナリ、〕勝論派ノ考ニテハ声ハ空ニ属ス、然ルニ空ハ極微ヨリ成ルモノニアラズ、故ニ声ハ唯ゝ現境ナリ、覚、楽、苦、欲、瞋、勤勇ノ六德ハ我意ノ相合シテ直接ニ惹起ス所ナルヲ以テ之レヲ現境トス、法、非法、行〔(念因)ノ三德〕モ亦我意ノ相合シテ知覚スル所ナレモ、間接ニ尋念推求シテ後、知覚スル所ナルヲ以テ之レヲ非現境トス、「〔決擇巻五(四左)ニ云ク「法非法等、楽苦ノ果ノ因、必待ニ分別一起、故非現」ト、是レ亦其直接ノ智識ニアラザルヲ謂フナリ、〕第二、次ギニ所作ト非所作ノ別アリ、所作ハ和合待籍積集ニヨリテ成リ、變化ヲ免レザルヲ謂ヒ、非所作ハ單純ニシテ常住ナルヲ謂フ、覚、楽、苦、欲、瞋、勤勇、法、非法、行、離、彼体、此体、声ノ十三德ハ所作ナリ、覚ハ現量ナレバ我根意境ノ四、若クハ我根意ノ三、若クハ我意ノ二ノ和合ヨリ生ジ、比量ナレバ精神ノ活動力ニヨリテ尋念推求シ、現智ニ對シテ生ズ、楽ト苦ハ法ト非法トニ對シ、欲ハ楽ト念ト邪智ト〔ト〕ニ對シ、瞋ハ苦ト念ト邪智トニ對シ、勤勇ハ欲ト瞋トニ對シ、法ト非法ハ聞ト遠離トニ對シ、行ハ念因ナレバ現智ニ對シ、作因ナレバ動作ニ對シ、離及ビ彼此体ハ相對シテ生ズ、是第十二德ハ極微子微ニ於ケルモ亦所作無常ナリ、声ハ一切待籍和合ヨリ生ジ、他ノ十二德ト同ジク所作無常ナリ、然レモ声ハ空ノ特有性ナルユエ極微ニ属スルモノナキナリ、〔其他ノ十一德(即チ色味香觸液体、潤、重体、數、別体、量、合)ハ或ハ所作或ハ非所作ナリ、〕地ニ属スル所ノ色味香觸ハ其子微以上ハ和合積集ノ故ニ所作ナリ、然ルニ其極微ノ色味香觸ハ必ズ火ト合シテ顕ハル、故ニ極微ノ地ハ非所作ナレモ、其色味香觸ハ火合性ナルガ故ニ所作無常ナリ、極微ノ水ト和合セル色、味、觸、液体、潤ノ五德ハ和合積集ニヨリテ生ズルニアラザルガ故ニ非所作ナリ、然レモ子微以上ノ水アリテハ同類タル父母ノ極微ヲ因トシテ積集ニヨリテ生ズルガ故ニ

所作無常ナリ、重体ハ水ニ就イテ云フモ、地ニ就イテ云フモ同一ノ理由ニヨリ極微ニアリテハ非所作、子微以上ニアリテハ所作ナリ、火ニ属スル色ト觸及ビ風ニ属スル觸モ亦水ノ属性ト同様ナリ、地ト火ノ有ル所ノ液体ハ一切所作ナリ、水ノ液体ハ上ニ述ベタルガ如ク極微ニアリテハ非所作、子微以上ニアリテハ所作、然ルニ地ト火トノ液体ハ唯〻子微以上ニアリテ其極微ニ属スルニアラズ、〔換言スレバ地ト火トノ極微ニハ液体ノ徳ナシ、地ト火トノ液体ハ〕必ズ積集ニヨリテ生ズルガ故ニ一切所作無常ナリ、一箇ノ數ト一箇ノ別体ハ其和合スル所ノ実ノ所作ナルト非所作ナルトニ隨ヒテ所作或ハ非所作ナリ、二箇以上ノ數ト二箇以上ノ別体ハ積集ナルガ故ニ一切所作無常ナリ、大体、微体、短体、長体ハ皆子微以上ニ於ケル量徳ニシテ和合ニヨリテ生ズルガ故ニ所作ナリ、圓体ハ一切非所作ナリ、質礙ト質礙ノ合、及ビ質礙ト非質礙ノ合ハ所作無常ナリ、非質礙ト非質礙ノ合ハ非所作ナルT言ハズシテ知ルベキナリ、〔常住ト無常モ亦所作ト非所作ノ如シ、一切所作ノモノハ無常ニシテ一切非所作ノモノハ常住ナリ、〕

第三、廿四徳ノ中声、觸、色、味、香ハ各〻一箇ノ覚能ノ感ズル所、即チ聽覚ハ声、觸覚ハ觸、視覚ハ色、味覚ハ味、嗅覚ハ香ヲ感ズ、數、量、別体、合、離、彼体、此体、重体、液体、潤、勢用（即チ行ノ作用）ハ〔地水火風ノ四大ニ附属シ、有觸ニシテ且ツ有可見ナルガ故ニ〕視觸二覚ノ感ズル所ナリ、其他覚、楽、苦、欲、瞋、勤勇、念因ノ行、法、非法、ハ我（即チ精神）ノ所〔感〕ズル所ニシテ覚能ノ関スル所ニアラザルナリ、

第四、次ギニ諸徳ノ原因ヲ擧ゲン、〔（一）〕色味香觸ハ地水火風ノ子微以上ニアリテハ同類ヲ因トス、是レ皆同類タル父母ノ極微ヨリ成レバナリ、〔（二）〕地実極微ノ有スル色味香觸ハ火合ヲ因トナス、是レ地実ノ極微ハ常住、非所作ナリト雖モ、其所有ノ色味香觸ハ火実ノ極微ト合シテ生ズルガ故ニ所作無常ナレバナリ、〔（三）〕地火二実ノ液体、地水二実ノ重体、及ビ水ノ液体ト潤ハ子微以上ニアリテハ同類ヲ因トナス、是レ同類タル父母ノ極微ヨリ成レバナ

リ、〔(四)〕一箇ノ數ト一箇ノ別体ハ子微以上ニアリテハ同類ヲ因トナス、是レ亦同類タル極微ヨリ成レバナリ、二箇以上ノ數ト二箇以上ノ別体ハ別体ノ同類ト不同類ヲ因トナス、是レ地ト地若クハ水ト水、相對スレバ同類ヲ因トスレ𪜈、地ト火、若クハ火ト水、相對スレバ不同類ヲ因トスレバナリ、一箇ノ別体ハ極微子微ニアリテハ遠覚ヲ因トナス、是レ彼レニ對シテ此レナリト覚知スレバナリ、〔(五)〕大体ト長体ハ積集差別ヲ因トシ、微体ト短体ハ二箇ノ極微ヲ因トナシ、〔(六)〕合ト離ハ一業、俱業及ビ合離ヲ因トナシ、〔(七)〕彼体ト此体ハ同時ニ遠近ノ知覚ニ對スルヲ因トナス、〔(八)〕智ニ二種アリ、即チ現量ト比量ト是レナリ、現量ニ又四種アリ、一ニ猶豫智、二ニ審決智、三ニ邪智、四ニ正智〔之レヲ差別ノ智トナス云フ、〕皆我ト意ト和合スルヲ因トナス、其何物ニセント云フ智ヲ猶豫智トシ、其是レハ此レナリト定ムル智ヲ審決智トシ、其暗ニ決断スル智ヲ邪智トシ、其顚倒ナキ智ヲ正智トス、比量ニモ亦現量ノ如ク四種アリ、

- 智
  - 現量
    - (一) 猶豫智
    - (二) 審決智
    - (三) 邪智
    - (四) 正智
  - 比量
    - (一) 猶豫智
    - (二) 審決智
    - (三) 邪智
    - (四) 正智

次ギニ和合生ノ因ヲ説明セン、現量ニ三種アリ、第一ハ四和合ヨリ生ズルモノ、第二ハ三和合ヨリ生ズルモノ、第三

ハ二和合ヨリ生ズルモノ、四和合ヨリ生ズル現量ハ我根意境ノ四和合ヲ因トスルモノ、即チ色、味、香、觸、數、量等ニ於ケル智識ノ如キ是レナリ、三和合ヨリ生ズル現量ハ我根意ノ三和合ヲ因トスルモノ、即チ声ニ於ケル智識ノ如キ是レナリ、二和合ヨリ生ズル現量ハ我意ノ二和合ヲ因トスルモノ、即チ苦楽欲瞋勤勇ニ於ケル智識ノ如キ是レナリ、比量ハ我意ノ二和合ヲ因トナス、是レ比量ニアリテハ彼現ハレザル境界ハ此現ハレ居ル境界ト相違スルガ故ニ、我意相合シテ念頭ニ之レヲ比較推度スレバナリ、（九）楽ト苦ハ法ト非法トニヨリテ起リ、或ハ四和合（即チ色根ノ所取）、或ハ三和合（即チ色根ノ所取）、或ハ三和合（即チ耳根ノ所取）、或ハ二和合（即チ意根ノ所取）ヲ因トナス、法ト非法ハ楽ト苦ノ遠因ニシテ四三二ノ和合ハ其近因ナリ、（十）欲ト瞋ハ楽苦ノ念ト邪智トニヨリテ起リ、我意合スルヲ因トナス、楽苦ノ念ト邪智ハ欲瞋ノ遠因ニシテ我意ノ二和合ハ其近因ナリ、遠因ノ中又別因（即チ特殊ノ遠因）ト通因（即チ普通ノ遠因）ノ別アリ、楽苦ハ別因ニシテ念ト邪智ハ通因ナリ、其図左ノ如シ、

欲瞋〔ノ〕因
- 別因
  - 楽（欲ノ別因）
  - 苦（瞋ノ別因）
- 遠因
  - 通因
    - 念
    - 邪智
    - （欲瞋ノ通因）
- 近因……我意ノ二和合

（十一）勤勇ハ欲若クハ瞋トニヨリテ起リ、我意合スルヲ因トシ、并ニ命縁（即チ命根ノ縁）ヲ因トス、但シ無意的ノ勤勇ト呼吸等ハ業ヲ因トナス、蓋シ勤勇ニ二種アリ、一ハ有意的 conscious 一ハ無意的 unconscious 有意的勤勇

ノ遠因ハ欲ト瞋ナリ、近因ハ我意ノ二和合ト命縁ナリ、無意的勤勇ハ業ヲ因トナス、其表左ノ如シ、

- 勤勇
  - 有意的
    - 遠因
      - 欲
      - 瞋
    - 近因
      - 我意ノ二和合
      - 命縁
  - 無意的……業ヲ因トナス

命縁ハ生命ヲ推持スル力ニシテ猶ホ「玉の〔ノ〕緒」ト云フガゴトシ、試記巻下（二十二右）ニ云ク「言二命縁一者以二内息風一為二命根縁一」ト、又（三十六左）ニ云ク「命是活義、活命之縁、名為二命縁一、即是内風、名二優陀那一」ト果シテ然ラハ命縁ハ僧佉派ノイハユル優陀那 udâna 即チ上向的ノ息ヲ謂フナリ、（十二）勢用即チ行ノ作因ハ業ヨリ生ズル勢用ヲ因トナス、（十三）法ト非法ハ倶ニ我意合スルヲ因トナス、是レ法ハ我意合シテ善ヲ聞知シ、不善ヲ避クルヲ因トシ、非法ハ我意合シテ不善ヲ聞知シ、善ヲ避クルヲ因トスレバナリ、（十四）念因ノ行ハ現量若クハ比量ノ作用ヲ俟チテ我意合スルヲ因トナス、現比ノ作用ハ其遠因ニシテ、我意ノ二和合ハ其近因ナリ、（十五）声ニ三種アリ、第一ハ合ヨリ生ズルモノ、第二ハ離ヨリ生ズルモノ、第三ハ声ヨリ生ズルモノ、其合ヨリ生ズルモノハ例ヘバ拍手等ノ如ク、有觸ノ実ガ空處ニ合スル〔ヲ〕因トナス、其離ヨリ生ズルモノハ例ヘバ破竹等ノ如ク、有觸ノ実ガ空處ニ離ルヲ因トナス、其声ヨリ生ズルモノハ例ヘバ鼓笛等ノ如ク、虚無ナル空處ノ声ヲ因トナス、」

第五、次ギニ一実ヲ依トスルト、非一実（即チ二実以上）ヲ依トスルトノ別アリ、廿四德ノ中色、味、香、觸、量、

彼体、此体、覚、楽、苦、欲、瞋、勤勇、法、非法、行、重体、液体、潤、勢用、声ノ廿一ハ皆一物ニヨリテ現ハルヽガ故ニ之レヲ一実ヲ依トスルト云フ、合ト離ハ二物ニヨリテ現ハルヽガ故ニ、之レヲ二実ヲ依トスト云フ、數ト別体ハ或ハ一実ヲ依トシ、或ハ非一実ヲ依トス、一箇ノ數ト一箇ノ別体ハ一実ヲ依トスレモ二箇以上ハ非一実ヲ依トスルナリ、

第六、次ギニ遍所依ト不遍所依ノ別アリ、遍所依ハ此アルキ彼レアリ、彼レアルキ此レアリテ同時ニ共有スルヲ謂不遍所依ハ此レアルキヒ、彼レナク、彼レアルキ此レナク同時ニ并存セザルヲ謂フ、色、味、香、觸、數、量、別体、彼体、此体、液体、潤、重体、勢用ノ十三ハ遍所依ナリ、色味アル處ニ香觸アリ、亦數量アリ、彼等ハ此ノ如クニシテ同時ニ共存スルヲ得レバナリ、其他覚楽苦欲瞋等ノ十二ハ不遍所依ナリ、楽ト苦ハ同時ニ并存シ難キガ如キ事情アレバナリ、

第七、次ギニ相違ト不相違ノ別アリ、何ヲカ相違ト云ヒ、何ヲカ不相違ト云フ、彼レト此レト背戻スルヲ相違トシ、然ラザルヲ不相違トス、相違不相違ノ類、合シテ九種アリ、

第一、果相違、
第二、因相違、
第三、非果相違、
第四、果不相違、
第五、非果因違、
第六、非果因而相違、

第七、同類因果不相違、
第八、非果因不相違、
第九、德実不相違、

今左ニ逐次之レヲ説明セン、(一)合ト離ヨリ生ズル声ハ一切ノ声ノ果ト相違ス、何ントナレバ凡ソ声ハ合ト離ヨリ生ズ、之レヲ初声トス、此初声ハ能ク他ノ声ヲ生ズ、他ノ声トハ声ヨリ生ズルノ声ニシテ即チ後声ナリ、初声ハ因ニシテ後声ハ果ナリ、然ルニ後声生ズルトキ、初声已ニ滅シテ因ノ初声ハ果ノ後声ト俱在ナラザレバナリ、(二)法ハ楽ト正智ノ果ト相違ス、何ントナレバ、法ニ能轉能還ノ二種アリテ、能轉因トナレバ楽果ヲ得、能還因トナレバ正智ヲ得、其因ハ其果ト俱在ナラズシテ現末ノ差アレバナリ、(三)非法ハ苦ト邪智ノ果ト相違ス、何ントナレバ非法ハ因、苦ト邪智ハ其果、因ノ非法ハ果ノ苦及ビ邪智ト俱在ナラザレバナリ、(四)一切ノ智ノ作用ハ其現比ノ差別アルニ拘ハラズ、果ト相違ス、何ントナレバ念因ハ智ノ作用ニヨリテ起リ、智ト俱時ナラザレバナリ、(五)差別ノ智(即チ八種ノ智)ト一切智(即チ当該ヲ除ク其餘ノ智)ノ作用ト果相違ナリ、何ントナレバ差別ノ智ハ何ツレモ、他ノ一切ノ智ノ作用ト俱在ナラズ、例ヘバ猶豫智ハ審決智ノ果ト俱在ナラザルガ如ク、時間的ノ差アレバナリ、(六)最後ノ声ハ一切ノ因ト相違ス、何ントナレバ最後ノ声ハ前声(即チ声ヨリ生ズルノ声)ヲ因トシ、其因ト俱在ナラザレバナリ、(七)最後ノ我德ハ最後ノ声ト同ジク一切ノ因ト相違ス、何ントナレバ生命ノ特ニ終ハラントスルトキニハ前因已ニ滅シ了ハレバナリ、(八)楽苦ハ欲ト瞋トノ果ト相違ス、何ントナレバ欲ハ楽ノ果、瞋ハ苦ノ果ニシテ皆俱在ナラザレバナリ、(九)法ト非法ハ因相違ナリ、何ントナレバ欲ハ法ノ因、瞋ハ非法ノ因ニシテ、皆俱時ナラザレバナリ、(十)欲ト瞋ハ勤勇ノ果ト相違ス、何ントナレバ勤勇ハ欲瞋ノ果ニシテ俱在ナラザレバナリ、(十一)楽ト苦ハ因

ト相違ス、何ントナレバ、楽苦ノ因ハ法非法ニシテ俱在ナラザレバナリ、（十二）中間ノ聲ハ果因ト相違ス、何ントナレバ、初声ニ對シテハ因相違、後声ニ對シテハ果相違ナレバナリ、（十三）我德ノ勤勇ト苦トガ有觸ノ実（即チ身体）ト合スルハ〔非果因相違ニアラズ〔ナリ〕、何ントナレバ此両者〔一ハ勤勇ト苦、他ハ有觸ノ実〕ハ相互ニ果ニモアラズ、又因ニモアラズ、唯〻相合シテ俱在ナラザレバナリ、（十四）我德ノ行ノ念因ト苦ハ〔非〕果因相違ニアラズ〔ナリ〕、何ントナレバ此両者ハ相互ニ果ニモアラズ、因ニモアラズ、唯〻相合シテ俱在ナレバナリ、（十五）行ノ念因ハ果ト相違ス、何ントナレバ念因ハ因、差別ノ智ハ果、此両者俱時ナラザレバナリ、（十六）作因ガ有觸ノ実ト合スルハ果ト相違スルニアラズ、何ントナレバ、有觸ノ実ガ有スル所ノ勢用ハ即チ作因ニシテ、其有觸ノ実ト合シタルノ果ト俱時順合シテ相違セザレバナリ、（十七）二箇以上ノ數ト二箇以上ノ覚ノ果トハ相違セズ、何ントナレバ二箇以上ノ數ハ因、二箇以上ノ覚ハ果、然レドモ因果、俱起シテ相違セザレバナリ、〔決擇巻五（四十右）ニ云ク「不レ言二一數一、準可レ知故」ト、一箇ノ數モ固ヨリ果不相違ナリ、〕（十八）二箇以上ノ別体、彼体、此体モ之レト同ジク覚ノ果ト相違セズ、（十九）地ノ極微ニ属スル所ノ色味香觸ノ火ト合スルハ〔非〕果因相違ニアラズ〔ナリ〕、何ントナレバ、色味香觸ハ果〔德〕、火ハ因〔実〕、此両者〔ハ果ニモアラズ、因ニモアラズシテ〕俱在ナレバナリ、〔決擇巻五（三十左）ニ云ク「若爾何故説二火合因一、顕成故因、以レ非二親生故一、非二果因一」ト、〕（二十）合ト離ハ果因ニアラズシテ相違ス、何ントナレバ此両者ハ相待チテ成立シ、互ニ果タリ、因タルニアラズ、然レドモ此レアレバ彼レナク、彼レアレバ此レナク、両者俱在ナラザレバナリ、（廿一）地水火風中一実ノ極微ノ色觸香味ハ能ク同類ノ二微ノ色味香觸ノ因ニシテ是等同類ノ果ト相違セズ、是レ其俱在ナルヲ以テナリ、（廿二）最後有分（即チ有細分）ノ実ノ色味香觸ノ果ハ因ノ色味香觸ト同類ニシテ相違セズ、何ントナレバ、因ハ極微、果ハ全世界、此両者其色味香觸ヲ同ウスレバ

ナリ、(廿三) 初後中間ノアラユル有分ノ実ノ色味香觸モ亦其同類ニアリテハ果因相違セズ、何ントナレバ、中間ノ有分ノ実ハ極微ノ色味香觸ニ對スレバ果ナレモ、最後ノ有分ノ実ノ色味香觸ニ對スレバ因ナリ、然レモ果因共ニ同類ニシテ俱在ナレバナリ、(廿四) 一実有スル所ノ色味香觸ハ互ニ相待望スルニ果因ニアラズシテ相違セズ、何ントナレバ是等ハ果ニモアラズ、因ニモアラズ、色、香ヲ生セズ、香、色ヲ生セズ、然レモ同時俱在順ニ合スレバナリ、(廿五) 一切ノ德ハ実ト相違セズ、德ハ実ニ属スルモノナレモ、亦一元ニシテ実ノ果ニアラズ、然レモ両者能ク和合シテ俱在ナルヲ得ルナリ、

第八、次ギニ有実ト無実ノ別アリ、有実トハ所属ノ実ヲ有スルノ義ニシテ無実ハ其然ラザルヲ謂フ、然ルニ二十四德ハ皆有実ナリ、何ントナレバ、德ハ總ベテ実ニ属シ、実ヲ離レテ別ニ德アルヿナク、德ハ実ノ表章ナレバナリ、德其レ自身ハ無德ナリ、又無動作ナリ、又和合因縁ニアラザルナリ、実ノ属性ナリ、無質礙ナリ、無細分ナリ、

第七節 第三句ノ業ハ作用動作ノ義ナリ、九実ノ中唯〻地水火風意ノミ業アリ、業ニ五種ノ別アリ、第一ハ取業、是レ物ノ已ニ合シ居ルヲ離シ来ル作用ヲ謂フ、ガウフ氏ハ訳シテ throwing upwards ト云ヘリ、第二ハ捨業、是レ物ノ已ニ離レ居ルヲ合シ来ルヲ謂フ、ガウフ氏ハ訳シテ throwing downwards ト云ヘリ、第三ハ屈業、是レ物ノ合シ居ラザルヲ曲ゲテ合セシムルヲ謂フ、ガウフ氏ハ訳シテ contracting ト云ヘリ、第四ハ伸業、是レハ物ノ曲ガリ居ルヲ伸ブルヲ謂フ、ガウフ氏ハ訳シテ expanding ト云ヘリ、第五ハ行業、是レ有形ノ已ニ合スルヲ離スヲ謂フ、然レモ取業ト同一ニアラズ、取業ハ手ニ就イテ云ヒ、行業ハ足ニ就イテ云フ、行クニ当リテ足ノ已ニ地ニ合スルヲ離シテ歩ヲ進ム、是レヲ行業トス、ガウフ氏ハ訳シテ、going ト云ヘリ、〔サンカラ、ミスラ氏オモヘラク、going is a particular class comprising revolution, evacuation, dropping, flaming upwards, bending up and down etc. ト〕

今五業ヲ表ニスレバ左ノ如シ、

業 Karman action
- (一) 取業 utkshepaṇa, throwing upwards.
- (二) 捨業 avakshepaṇa, throwing downwards.
- (三) 屈業 ākuṅćana, contracting.
- (四) 伸業 prasârana, expanding.
- (五) 行業 gamana, going.

此分類ハ甚ダ巧ナリ、上向ハ取業、下向ハ捨業、内向ハ屈業、外向ハ伸業、此四種ノ業ニテ殆ンド一切動作ノ種類ヲ盡クセリ、行業ハ取捨二業ヲ合一シタルモノナリ、足ヲ上グルトキハ取業、又下グルトキハ捨業、幾度モ取捨二業ヲ繰返ヘシテ行業ヲ成スナリ、故ニ其実行業ハ贅ナリ、之レニ反シテ物ノ輪轉スルガ如キハ轉業トシテ算入スベキニ勝論派ハ之レヲ忘レタリ、

五業ノ中尚ホ種々ナル差別ノ辨明ヲ要スルモノアリ、今之レヲ四項ニ大別シテ叙述スル「左ノ如シ、

第一、此中又十一種ノ別アリ、(一) 五業ハ一切有実ナリ、有実トハ実ニ依リテ起ルヲ謂フ、若シ実ナケレバ業何ニヨリテ起ルヲ得ン、(二) 業ハ必ズ一実ニ依リテ起ル、(三) 業ハ虚形ニシテ障碍ナキガ故ニ無質礙ナリ、(四) 德ハ獨リ実ニ属スルモノナルガ故ニ業ハ無德ナリ、(五) 業ハ極微ノ積集ヨリ成ルニアラザルガ故ニ無細分ナリ、(六) 合ト離ハ業ニヨリテ起ル、故ニ業ハ離合ノ因ナリ、(七) 原動ヲ能作ト云ヒ、被動ヲ所作ト云フ、共ニ是レ業ナリ、故ニ業ハ能作所作ノ事ナリ、(八) 業ハ子微孫微等ノ如クニ多体積集シテ成ルモノニアラズ、故ニ不積集ナリ、(九) 業ハ実ノ発表スル所ナルガ故ニ之レヲ実ノ標幟（即チ記號）トス、(十) 勢用即チ作因ハ業ヲ因トナス、(十一) 業ハ同

類ニアラザルヲ因トス、即チ地水火風意ノ五実ハ同類ナラザルモ相互ニ因タリ、例ヘバ地実因トナリテ水実業ヲ生ズルガ如キ是レナリ、

第二、五業ノ中、捨行ノ三業ハ一切ノ地水火風意ノ五実ニ関シ、屈伸ノ二業ハ長大ナル孫微以上ノモノ而已ニ関シテ之レアリ、

第三、次ギニ遍所依ト不遍所作ノ別ヲ説明セン、是レニ二説アリ、第一ハ五業ハ皆遍所依トス、何ントナレバ是等ハ皆地水風意ノ五実ニヨレバナリ、第二ハ極微及ビ意ニ於ケル業ハ遍所依、二微等ニ於ケル業ハ不遍所依トス、是レ地水火風ノ極微ト意実ハ倶ニ常住ニシテ無方分（即チ角目ノナキコ）子微已上ハ有方分ニシテ無常ナレバナリ、前者ハ所依ノ具不具ニヨリ、後者ハ方分ノ有無ニヨリテ遍所依、不遍所依ノ別ヲナセリ、

第四、次ギニ和合因縁ト不和合因縁ヲ説明セン、和合因縁ハ他ノ現象ヲ和合シテ起ラシムルモノ〔セシムル原因〕ヲ謂ヒ、不和合因縁ハ他ノ現象ヲ和合スルニアラズシテ但ゝ其原因トナリテ起ラシムル〔他ノ現象ヲ和合スルニアラズシテ但ゝ其原因トナリテ起ラシムル〕ヲ謂フ、ガウフ氏前者ヲ coinherent cause ト云ヒ、後者ヲ non-coinherent cause ト云ヘリ、〔和合因縁不和合因縁ニ就イテハ古来異説甚ダ多シ、衛世師經ニヨルモ亦其意明瞭ナラズ、蓋シ勝論派ニテハ四種ノ原因アリトセリ、其一、和合因

(一) 和合因縁 samavâyi-kârana……密着不離ノ関係ヨリ起ルモノナリ、即チ材料原因ナリ、

(二) 不和合因縁 a-samavâyi-kârana……密着不離ノ関係ナクシテ起ルモノナリ、即チ形成原因ナリ、

(三) 助成因縁 nimitta-kârana……間接ニ助力ヲナスモノヲ謂フ、即チ期成原因ナリ、

(四) 預料因縁 prayojana……事物ヲ作為スルニ先チテ起ル動機ヲ謂フ、即チ結句原因ナリ、

此主旨意ニヨリテ和合因縁不和合因縁ノ語ヲ解スルトキハ以下論ズル所自ラ明瞭ナラン〕身内ニ於ケル各種ノ業ハ身ト〔及ビ〕身ノ因縁ニヨリテ起ル、然ルニ其因縁ニ二種アリ、即チ和合因縁ト不和合因縁、是レナリ、嗅覚、味覚、觸覚、視覚ノ四根（即チ地水火風）ト意実ハ業ヲ実ニ合スル和合句義ノ為メニ因縁トナリテ其作用ヲ起スガ故ニ之レヲ和合因縁トスルナリ、不和合因縁ハ（一）初発ノ身業（即チ身体ノ動作）ハ欲ニヨリ起ル、然レモ獨リ欲ノミニヨリテ起ルニアラズ、又勤勇ノ助ケヲナスアリ、然ルニ勤勇ハ是レ徳ニシテ不和合因縁タリ、光嚴曰ク、「唯実為レ業為二和合因縁一、由二有動作実有義一、徳為レ業為二不和合因縁一、由二無動作実有義一、此即雖下業必徳為二所依托一、発動上、而徳無動作無有常故、無下可二和合一理上、故不和合因縁」ト、欲ト勤勇ハ身業ヲ惹起スモ、自ラ無動作ナルガ故ニ和合因縁ニハアラザルナリ、初発以後ノ身業ハ更ニ又行（即チ勢用）ヲ以テ不和合因縁トナス、光嚴曰ク、「若念因若作因、皆是無動作徳、無下與二動作業一可二和合一之理上、故不和合因縁」ト、行モ亦無動作ニシテ和合因縁トナラザルナリ、（二）意及ビ細分（即チ子微以上）ニ於ケル業モ身業ト同ジク初発ハ欲ト勤勇ヲ不和合因縁トシ、後又勢用ヲ不和合因縁トスルナリ、（三）嗅、味、觸、視ノ四覚ノ初発ノ業ハ勤勇ヲ以テ不和合因縁トシ、以後ハ行（即チ勢用）ヲ以テ不和合因縁トナス、（四）睡者ノ身ガ隨落スル初発ノ業ハ重体ヲ以テ不和合因縁トナシ、以後ハ重体ト勢用ヲ以テ不和合因縁トナス、（五）睡者ノ呼吸ノ業ト、不覚ノ業トハ其初発ノ時命縁ニヨリテ起リ、勤勇ヲ以テ不和合因縁トナス、以後ハ行（即チ勢用）ヲ以テ不和合因縁トナス、（六）下ニ流ル、水（即チ尿水涕涙等）ノ如キハ其初発ハ液体ヲ以テ不和合因縁トナス、〔以後ハ液体ト行ヲ以テ不和合因縁トナス〕、（七）火ノ上ニ然ルモ、風ノ傍ニ扇グモ、其初発ハ法ト非法ヲ以テ不和合因縁トナシ、以後ハ法ト非法ト行（即チ勢用）ヲ以テ不和合因縁トナス、火ノ上ニ然ルトハ例ヘバ身内ノ火大上昇シテ面色赤紅ナルガ如キヲ謂ヒ、風ノ傍ニ扇グトハ九空〔穴〕ノ風氣ヲ謂フナリ、

(八) 四大ノ極微ガ身体ヲ作為スル初発ノ業ガ法ト非法ヲ以テ不和合因縁トナス」前條ノ如シ、(九) 樹草等ノ變異ヲ作為スルモ、二微以上ニ於ケル業モ亦前條ノ如シ、(十) 意ノ趣向及ビ棄背スル初発ノ業モ亦前條ノ如シ、趣向棄背ハ猶ホ愛憎ト謂フガゴトシ、善ヲ愛シ、悪ヲ憎ムハ法ト我ニヨリ、悪ヲ愛シ善ヲ憎ムハ非法ト我ニヨル、(十一) 足業ノ利不利ノ初発モ亦前條ノ如シ、足業ニ正行アリ、傍行アリ、然ル正行傍行ハ善不善ノ結果ヲ表スルモノニテ法非法ヲ不和合因縁トナス、(十二) 地水火ニ於ケル擲打相應ノ業ハ重体、液体、勤勇、勢用ヲ以テ不和合因縁トナス、相應ノ業トハ地水火ヲ打擲スレバ反應ノ動作ヲ生ズルヲ謂フ、(十三) 相應ノ業ノ如ク、取業捨業モ亦ア〔然〕リ、但シ火ニアリテハ重体〔ヲ〕除ク、火ハ上昇シテ墜堕セザレバナリ、風ニアリテハ液体ヲ除ク、風ハ乾了シテ流注セザレバナリ、意ニアリテハ打擲ヲ除ク、意ハ有礙ナリト雖モ、無觸ニシテ打擲スベカラザレバナリ、

〔決擇巻五(四十二右)ニ云ク、夫五業依二有質実一、有質実者、四大及意、此有二除不一、故今説レ此、若在レ火業、上昇之性、非二墜堕用一、故除二重体一、在レ風乾用非レ有二流注一、故除二液体一、意雖二有礙一、然是無觸、非レ可二攢擲一、故除二打擲一、何故不レ説二地水所除一、義準顯故、謂地除レ潤於レ水除レ香、此餘一切相應不相應、並準二前有德多少門一可レ知、故且約二火風意一、各除二一事一、以為二思擇之端一〕

第八節 以上擧グル所ノ三句ニ又三種ノ性アリテ之レヲ推持セリ、第四句義ノ大有ハ実德業ヲシテ継續セシムル所ノ原能力ナリ、故ニ之レヲ大有性ト称ス、然レモ此名称ニハ總ベテ八種ノ異名アリ、

第一、同……十句論(一右)唯識疏(一末四十五右)

第二、有性……十句論(十二右)唯識疏(一本五十三左)

第三、有……唯識疏（一本五十三左）因明疏（三巻三十二左）光記（五巻九右）

第四、大有……因明疏（五巻八左）唯識疏（一末四十五右）玄談（八巻十一右）

第五、大同……唯識疏（一末四十六左）

第六、總同……倶舎（五巻二右）光記（五巻七右）

第七、總諦……方便心論（二右）

第八、總相諦……百論疏（上中廿六左）弘決（十巻九右）暉鈔（一巻十一左）

是等ノ異名ハ唯〻種々ナル點ヨリ考察シ来リテ下ダシタルモノナリ、大有性ハ実德業ノ三諦ヲシテ同ジク成立セシムルガ故ニ、之レヲ同ト云ヒ、總同ト云ヒ、又彼ノ三諦ヲシテ各〻其自体ヲ有セシムルガ故ニ之レヲ有ト云ヒ、有性ト云フ、然ルニ其効用ノ極メテ廣大ナルガ故ニ或ハ大有ト云ヒ、或ハ大同ト云フ、總諦ハ同ノ義ニ仝ジク總相諦ハ実德業三句ノ總相ヲ成立セシムルガ故ニ下ダシタル名称ナリ、

大有ニ二種ノ別アリ、一ハ高等 para ニシテ一ハ劣等 apara ナリ、高等ノ大有ハ実在的ニシテ類ニ應用スベク、劣等ノ大有ハ実科的ニシテ種ニ應用スベキモノナリ、（衛世師經第一巻第二章第三節ノ注）、

大有性ハ（一）他ノ句義ヲ竢チテ始メテ生ズルモノニアラザルガ故ニ非所作ナリ、（二）又生滅ヲ離ル、ガ故ニ常住ナリ、（三）德ハ唯〻実ニ属スルノミニテ、他ノ句義ニ属セズ、故ニ大有性ト無德ナリ、（四）業モ亦唯〻実ニ属スルモノナル故ニ大有性ハ無動作ナリ、（五）大有性ハ極微ヨリ成ルニアラザルガ故ニ無細分ナリ、（六）大有性ハ唯実德

業ノ三者ノミヲ有ナラシム、(七) 同、有能、無能、俱分、異ノ五句ハ大有性ノ有ナラシムル所ニアラズ、其中同ハ大有性其レ自身ナリ、其レ自身ハ其レ自身ヲ有ナラシムル「ナキユエニ同モ大有性ノ有ナラシムル所ニアラザル五句中ニ列セリ、有能、無能、俱分、異ノ四句モ皆同ト同ジク有体ナレモ、大有性ガ有ナラシムルニアラズシテ、自存的有体ナリ、無説ハ有体ナラザルガ故ニ論外ナリ、和合ハ大有性ガ実德業ヲ有ナラシムルキ、生至ノ因(即チ種々ノ事物ヲ一処ニ生ジ至ラシムルノ因)トナル故ニ此ニ擧ゲザルナリ、(八) 和合句ハ能和合ナリ、其他ノ句義ハ無説ヲ除クノ外ハ盡ク所和合ナリ、故ニ大有性モ其一ニシテ所和合ナリ、(九) 大有ハ唯一ナリ、唯識疏一末(四十六左)ニ「大同和合二、唯一物」ト云ヘリ、(十) 大有性ハ実德業ヲ有ナリト認識シ得ルノ因ナリ、(十一) 大有性ハ別有ナリ、即チ他ノ句義以外ニ自ラ実体ヲ有スルナリ、

第九節 第五ノ句義ヲ同異 [illegible] トナス、同異ハ惠月ノ所謂俱分ニシテ実德業ヲシテ或ハ同類或ハ異類ナラシムル原能力ナリ、委ク之レヲ言ヘバ、実德業相互ニ差別アリ、実ハ德ト同ジカラズ、德ハ業ト同ジカラズ、業モ亦実ト同ジカラズ、此ノ如クニシテ三句ノ間ニ差別アル、是レ其異ナリ、然レモ実ノ九種ハ皆同類ナリ、德ノ二十四種モ、業ノ五種モ、各〻同類ヲ成ス、是レ其同ナリ、然ルニ九実ノ中又同異アリ、何ゾヤ、地ハ水ト異ニ、火ハ風ト同ジカラズ、是レ其異ナリ、湖水ト泉水ト、河水ト仝ジク一類ヲ成ス、是レ其同ナリ、故ニ同異ノ中又同異アルヲ見ル、而シテ尚ホ又其次ギノ同異アルヲ準知スベキナリ、德業ノ二句ニアリテモ亦同様ナリ、因明疏巻五(八左)ニ云ク、「同異句義、能同ニ異彼実德業三」、此三之上、各々有ニ一總同異性」、隨レ應各々有ニ別同異」、如レ是三中隨ニ其別類ニ復有ニ總別諸同異性」、」ト、是レ此意ヲ述ブルモノナリ、抑〻總同異トハ実德業ガ相互ニ異類トナリ、自諦ニ於テ同類ナリ、之レヲ彼ノ自諦中細小ナル同異ニ比ヘバ總同異ナリ、地ト水ト相區別シテ異類タレモ各種ノ地、若クハ各種ノ水ハ同

類タリ、之レヲ彼ノ總同異ニ比スレバ別同異ナリ、已ニ区別シタルノ一部分ノ内ニ又同異アルガ故ナリ、然ルニ同ジ粘土若クハ同ジ冷水ノ中ニ尚ホ別同異ノ存スル所ヨリ云ヘバ先キノ別同異モ總同異ト謂フベキナリ、然ルニモニエル、ウヰルリヤムス氏ハ同異ヲ惠月ノ異ノ如クニ解セリ、其説ニ據レバ、同異ト云ヘル性ハ唯〻九実ノミニ属ス、此九実ハ相互ニ區別シ、究竟ノ差ヲ有セリ、(Indian Wisdom, p. 80) 然レ𪜈慈恩ノ傳フル所ニ據レバ、カナーダ氏ノ同異ハ惠月ノ第九句ノ俱分ト同一ニシテ、單ニ異ト云ヘル第五句ト混同スベカラズ、異ハ十句論ニ「常於レ実轉」ト云ヘル如ク、獨リ実ヲシテ德業ト区別セシメ、(總別) 又実中ノ九実ヲシテ相互ニ区別セシムル (別異) ヲ謂フナリ、惠月ハ迦那陀ノ同異ヲ俱分ト称シ、之レヲ第九句トナシ、第五句ハ改メテ異トセリ、俱分ハ実德業ノ三句ニ関スル同異性ヲ謂ヒ、異ハ單ニ実ヲシテ德業ニ異ナラシムル能力ヲ謂フ、唯識疏一末 (四十五右) ニ云ク「異句体者、常於レ実轉、是遮二德等心々所一因、是表二実性心々所一因、但於レ実轉、異レ実之物、実由レ有レ之異二於德等一故名為レ異」ト、又一末 (四十五左) ニ云ク、「俱分体者、即実德業三種躰性、此三之上總俱分性、地等色等別俱分性」ト、此レニ由リテ異ト俱分ノ別ヲ知ルベキナリ、惠月ノ所謂異ハ已ニ同異ノ中ニ含有セラル、ユエ、之レヲ分ケテ異ト俱分ノ二種ニナシタルハ贅ナリ、或ハ單ニ十句ノ成數ヲ得ンガ為メ、此無用ノ分類ヲ為シ、カノ疑ナキニアラザルナリ、

異ノ特殊ノ性質ハ今左ニ十三項ニ分チテ之レヲ説明セン、(一) 異ハ單ニ実ヲシテ異ナラシムルニ止ル、其他ノ句義ヲシテ異ナラシムルモノニアラズ、(二) 唯〻一実ニ存ス、多実ニ存スルニアラズ、(三) 此レニ對シテ自餘ヲ遮ルノ因ナリ、(四) 此レナリト知覚セシムルノ因ナリ、(五) 彼此体ナキ所ノ空時方ノ想ヲ起サシムルノ因ナリ、(六) 常住ナリ、(七) 非所作ナリ、(八) 無德ナリ、(九) 無動作ナリ、(十) 無細分ナリ、(十一) 有性、有能、無能、俱分、異ノ五句ハ異ノ関スル所ニアラズ、德業ハ異ガ実ニ對シテ遮ル所ナルガ故ニ異ノ関スル所ニアラズトスルヲ得ズ、異

ハ異其レ自身ヲ異ナラシムルニアラザルガ故ニ自体ヲ除クナリ、(十二) 和合句ガ和合スル所ナルガ故ニ所和合ナリ、(十三) 異ハ体數多ナルガ故ニ非一ナリ、

第十節 第六ノ句義ヲ和合 **समवाय** トス、即チ附着性ナリ、実等已ニ存在スト雖モ、同異ノ之レヲ分離スルノミニテハ萬物盡ク分立別行、唯〻差別ノミアリテ世界ハ為メニ成立セズ、然ルニ此ニ和合句アリテ始メテ能ク一切萬物ヲシテ調和セシム、同異ハ拒力 repulsion ノ如ク、和合ハ引力 attraction ノ如ク、或ハ又同異ハ離心力 centrifugal force ノ如ク、和合ハ向心力 centripetal ノ如ク、或ハ又同異ハ雜 heterogeneity ノ如ク、和合ハ純一 homegeneity ノ如シト謂フヲ得ベシ、モニエル、ウキルリヤムス氏曰ク、

The sixth category, samavāya, 'coinherence' or 'intimate relation', is only one kind. This relation appears to be that which exists between a substance and its qualities, between atoms and what is formed out of them, or between any object and the general idea connected with it, and is thought to be a real entity, very much in accordance with the Platonic realism of the Middle Ages. It is the relation between a jar and the earth which composes it, between a cloth and its threads, between the idea of round and any round thing, between a whole and its parts, between a genus or species [and] its individuals, between an act and its agent, between individuality and eternal substance.

和合句ハ其特殊ノ性質ヲ七項ニ分チテ之レヲ説明セン、(一) 和合句ハ其体一ナリ、(二) 常住ナリ、(三) 非所作ナリ、(四) 無細分ナリ、(五) 無質礙ナリ、(六) 一切ノ実德業同異有能無能倶分ヲ和合シ、一處ニ生ジ至ラシムルノ因ナリ、(七) 是レハ和合ナリト認認(ママ)シ得ルノ因ナリ、

六句ノ中初ノ三句即チ実德業ハ有形無形ヲ混入スレモ要スルニ皆実在的ナリ、然ルニ後ノ三句ハ盡ク無形ニシテ單ニ前ノ三句ヲシテ成立シムル所ノ原能力タルニ過ギザルナリ、勝論派ノ考ニテハ天地萬物ハ地水火風ノ原子ノ集合ヨリ成ル、是等原子ハ大有ノ力ニヨリテ宇宙ノ間ニ存在スルモ、猶ホ散乱シテ對象ヲ組成スル能ハズ、唯ゝ和合ノ力ヲ竢チテ始メテ集合シ凡百ノ對象ヲ組成スルヲ得、假令ヒ既ニ和合スルモ、若シ同異ノ力ナケレバ、萬物ハ混一シテ無差別トナラン、和合ノ力ニ對スルニ同異ノ力アリテ平等差別並ヒ行ハレテ、現象ヲ表現スルニ至ル、我ハ是ニ於テカ、意ヲ使役シテ情欲ヲ発動シ、因果應報ヲ拓クモノナリ、

惠月ノ十句義論ニ據レバ以上六句ノ外ニ尚ホ四句アリ、合シテ十句トナス、

第十一節　第七ノ句義ヲ有能ト云ク、即チ結果ヲ生ズルノ能力ナリ、第八ノ句義ハ無能、是レ前ノ有能ニ反シ、餘果ヲ生ズル能ハザル無能力ナリ、此両句義ハ自ラ作用ヲ為スモノニアラズ、但ゝ実德業ノ三者ガ或ハ共同シ、或ハ各別ニ各自果ヲ造ルトキハ必ズ有能ヲ用ヒ、各自果以外ノ餘果ヲ造ラザルトキハ無能ヲ用フ、若シ有能ナケレバ実德業モ各自果ヲ造ル能ハズ、若シ又無能ナケレバ一物ニシテ一切ノ果ヲ造ラン、有能ト無能ト互ニ相規定シテ因果ノ法ヲ成ス、此両句義ハ（一）非所作ナリ、（二）常住ナリ、（三）無德ナリ、（四）無動作ナリ、（五）無細分ナリ、（六）無質礙ナリ、（七）唯ゝ実德業ノ三者ノミニ於テ効用アリ、（八）有能無能俱分異ニハ効用ナキモノナリ、（九）所和末合ナリ、（十）非一ナリ、唯識疏巻一（四十六左）ニ有能無能ヲ多物トセリ、（十一）非ナレモ均シク各自ノ果ヲ認識シ得ルノ因ナリ、次ギニ第九ノ句義ヲ俱分トス、惠月ハ迦那陀ノ同異ヲ分チテ異ト俱分トニセリ、俱分ハ即チ同異ナリ、俱ハ同ノ義、分ハ異ノ義、唯識疏一末（四十五左）ニ云ク、「当二舊所説同異性一也、亦同亦異、故名二俱分一」ト、此意ヲ述ブルモノナリ、惠月ハ或者ノ附加シタル無説ヲ以テ第十句義トナス、無説 अभाव abhâva ハ無有ノ義ナリ、之レヲ無説

ト云フ事ニ就イテ二説アリ、

第一、無説トハ無ヲ説クノ意ナリ、光記五□□(ママ)ニ云ク、「無説者解云、謂説レ無」ト、是レ一説ナリ、

第二、無説トハ説クベキ事ナキノ意ナリ、基疏一末(四十六右)ニ云ク「此五既無、体不レ可レ説、名二無説一也、」ト、是レ一説ナリ、

訳者ガ無有ト云ハズシテ何故ニ無説ト云ヒタルカ、今得テ詳カニスルヲ得ザルナリ、然レモ無説ト云ハズシテ無有ト云フヲ正シトス、無説ノ語ハ唯〻古来ノ慣用ニ従ヒテ之レヲ用フルノミ、無説ニ五種ノ別アリ、

第一、未生無 प्रागभाव ……物ノ未ダ生ゼズシテ無有ナルヲ謂フ、例ヘバ未ダ造ラザル瓶ノ如シ、

第二、已滅無 प्रध्वंसाभाव ……物ノ已ニ滅シ了ハリテ無有ナルヲ謂フ、例ヘバ已ニ壊ハレタル瓶ノ如シ、

第三、更互無 अन्योऽन्याभाव ……物ノ相互ニ無有ナルヲ謂フ、例ヘバ牛ハ馬ニアラズ馬ハ牛ニアラザルガ如シ、

第四、不會無……物ノ和合セズシテ無月ナルヲ謂フ、例ヘバ土ノ和合セズシテ瓶ノ成ラザルガ如シ、

第五、畢竟無 अत्यन्ताभाव ……物ノ絶エテ無有ナルヲ謂フ、例ヘバ兎角亀毛ノ如シ、

衛世師經第九巻ニ據ルニ、唯〻未生、已滅、更生、畢竟ノ四無アリ、不會無ハ蓋シ惠月ノ附加マル所ナラン、其原語モ未ダ詳ナラズ、

涅槃經陳如品(会疏三十五巻十八右)ニ四無ヲ説ク云ク、「婆和吒言、瞿曇世間四種名レ之為レ無、一者未出之法、名レ之為レ無、如二瓶未レ出レ泥時名為レ無レ瓶、二者已滅之法、名レ之為レ無、如二瓶壊已名為レ無レ瓶、三者異相互無、名レ之為レ無、如二牛中無レ馬、馬中無レ牛、四者畢竟無故、名レ之為レ無、如二亀毛兎角一、」ト、數論派モ亦四説(ママ)ノ説アリ、金七十

論備考會〔本〕巻上（二十二右）ニ出ヅ、是等四無ノ説ハ衛世師經ト異ナラズ、然ルニ瑜伽論巻十六（五左）ニハ五無ヲ説ク、一ニハ未生無、二ニハ已滅無、三ニハ互相無、四ニハ勝義無、五ニハ畢竟無、其互相無ト云フハ更互無ノヿナリ、其勝義無ト云フハ不會無ニアラズ、解シテ曰ク「勝義無者、謂由二世俗言説自性一、假設二言論一、所二安立一性」ト、即チ假設的言論ノ有ナルガ如キモ、一層高尚ナル立脚地ヨリ見レバ無ナルヲ謂フナリ、故ニ瑜伽論ノ五無ハ惠月ノ五無ト全ク同一ナルニアラザルナリ、

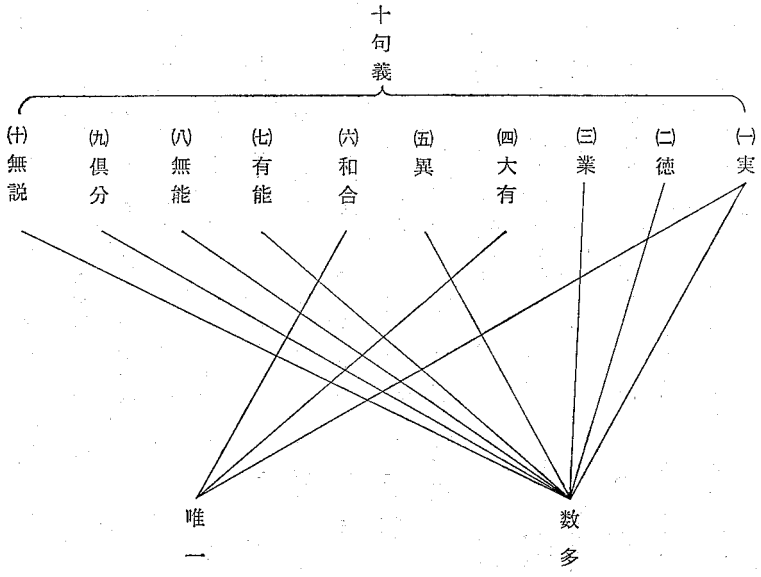
五無ノ中常住ナルアリ、無常ナルアリ、未生無ハ無常ナリ、未ダ生ゼザルモ当ニ生ズベキガ故ナリ、已滅無、更互無、畢竟無ノ三者ハ常住ナリ、是等ハ永遠ニ無ナルガ故ナリ、不會無ハ或ハ常或ハ無常ナリ、如何ナル場合ニアリテモ決シテ和合スルヿナキハ常住ナリ、未ダ和合セザルモ、当ニ必ズ和合スベキハ無常ナリ、

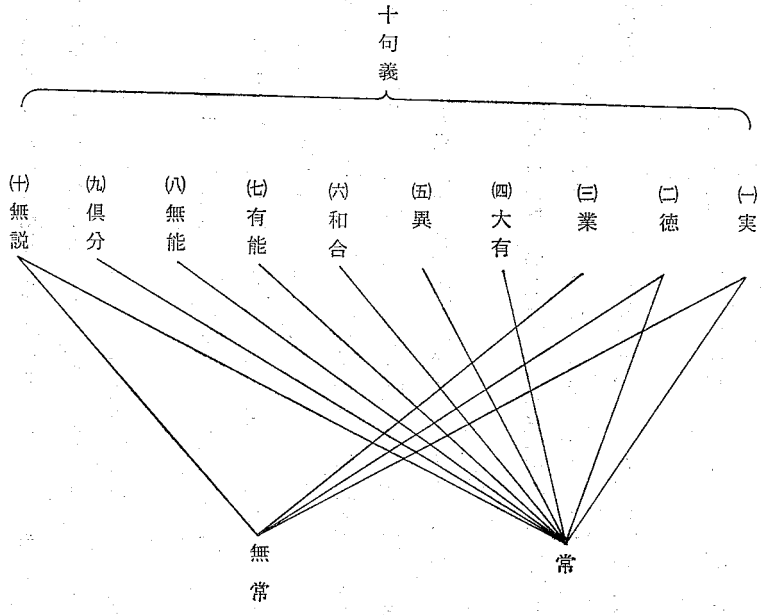
第十二節　已ニ迦那陀ノ六句ヲ説明シ、次イデ惠月ノ十句ヲ説明シ畢ハリタリ、〔尚ホ十句ニ就イテ總説スベキモノ四種アリ、（一）〕其中德業異有能無能俱分無説ハ數多ナリ、大有ト和合ハ唯一ナリ、実ハ或ハ唯一或ハ數多ナリ、唯識疏一末（四十六左）ニ云ク、「大同和合二唯一物、德業及異有能無能俱分無説七唯多物、実句一種亦一亦多」ト、是レナリ、今惠月ノ十句義ヲ表ニスレバ、〔六八頁上段、編者注〕

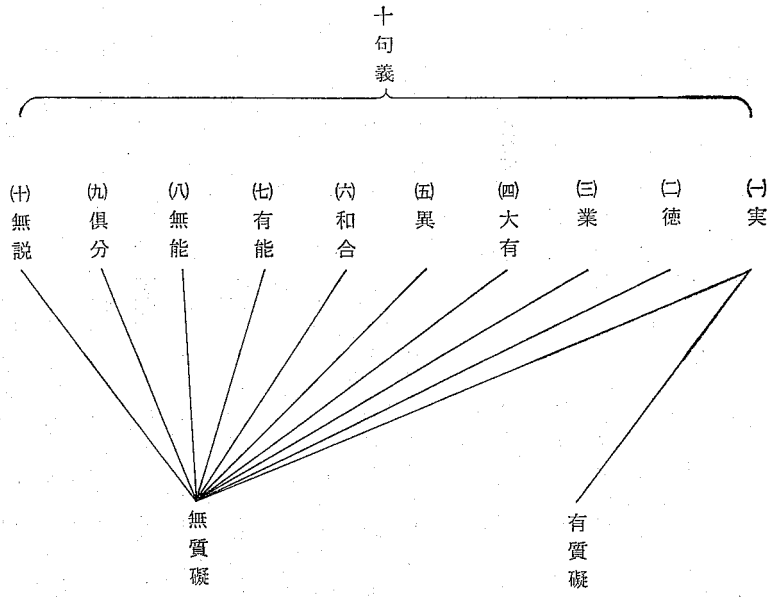
〔（二）〕十句ノ中ニ又常無常ノ別アリ、唯識疏一末（四十六左）ニ云ク、「大同及異和合有能無能俱分六句是常、非二所作一故、業唯無常、説二是能作所作事一故、実德無説、亦常亦無常、」ト、今之レヲ表ニスレバ、〔六八頁下段、編者注〕

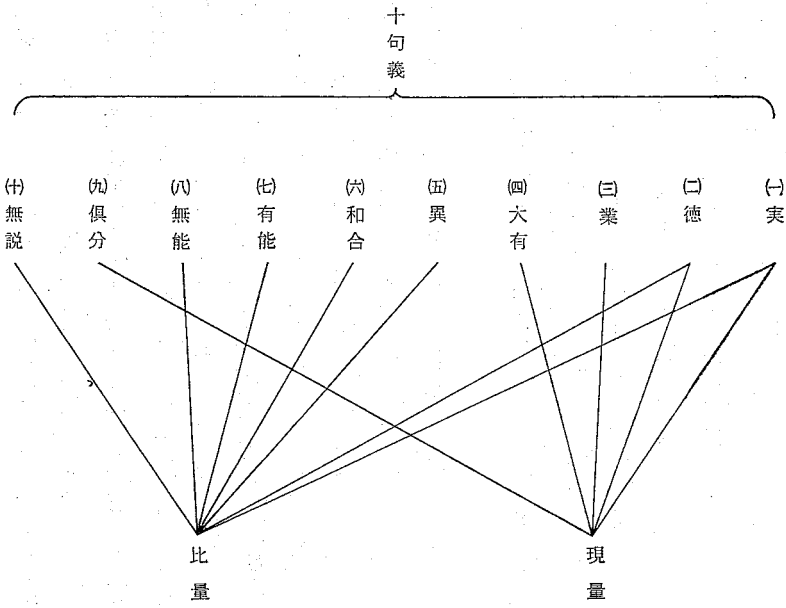
〔（三）〕次ギニ有質礙ト無質礙ノ別ヲ説明セン、実句ノ中ニ有質礙ナルアリ、無質礙ナルアリ、然レモ其他ノ句義ハ一切無質礙ナリ、今之レヲ表ニスレハ、〔六九頁上段、編者注〕

〔（四）〕勝論派ニテハ智識ニ現比ノ二種アリトスルヿ已ニ前ニ説明セリ、今十句ノ中孰レカ現量ニシテ孰レカ比量ナ


十句義
(十)無説
(九)俱分
(八)無能
(七)有能
(六)和合
(五)異
(四)大有
(三)業
(二)徳
(一)実
唯一
数多


十句義
(十)無説
(九)俱分
(八)無能
(七)有能
(六)和合
(五)異
(四)大有
(三)業
(二)徳
(一)実
無常
常


十句義
(十)無説
(九)俱分
(八)無能
(七)有能
(六)和合
(五)異
(四)大有
(三)業
(二)徳
(一)実
無質礙
有質礙


十句義
(十)無説
(九)俱分
(八)無能
(七)有能
(六)和合
(五)異
(四)大有
(三)業
(二)徳
(一)実
比量
現量

ルカ、業ト大有ト俱分ノ三句ハ現量ナリ、無説ハ現量ニアラズ盡ク比量ナリ、和合モ亦現〔量〕ニアラズ、実句ノ中ニハ現量ノモノアリ、比量ノモノアリ、地水火風ノ父母ノ極微ハ現量ニアラザルモ、子微以上ハ現量ナリ、空時方我意モ亦現量ニアラザルナリ、德句ノ中又現量ノモノアリ比量ノモノアリ、此事已ニ德句ノ下ニ詳悉セリ、有能ト無能モ亦現量ニアラザルナリ、唯識疏一末（四十九左）ニ云ク、「總言業有俱分三、唯現得、異及和合有能無能無説五、非ニ現得一餘二通レ二」ト、今云レヲ表ニスレバ、〔六九頁下段、編者注〕〔此ノ如ク十句ハ或ハ現量或ハ比量ナルガ故ニ一トシテ我知識ノ境界ニアラザルハナシ、十句論ノ終リニ云ク「此十句義、幾所知、幾非所知、一切是所知、亦即此詮因」ト、一切ノ現象ハ盡ク知リ得ベキモノニテ、之レヲ離レテ別ニ知リ得ベカラザルノ境界ハアルヿナキナリ、佛教ノ不可思議カント氏ノ物其レ身（ママ）、ハルトマン氏ノ不覚的スペンサー氏ノ不可知的ノ如キハ勝論派ノ假定セザル所ナリ、〕

第十三節　我意ノ差別及ビ関係……已ニ第五節ニ叙述セルガ如ク、我意ノ両者ハ九実ノ中ニ属スルモノナリ、然ルニ両者ノ差別及ビ関係ニ就イテハ尚ホ多少ノ説明ヲ要ス、何ントナレバ勝論派ノ我意ハ自ラ一種特別ノ意味ヲ有スレバナリ、

第一、我〔आत्मन् âtman〕ハ、即チ神我、今ノイハユル精神ナリ、然ルニ印度ノ哲学者ハ我ノ事ニ就キ我〔種〕々ノ説ヲ立テタリ、成唯識論ノ初ニ三種ノ説ヲ挙ゲテ曰ク、「一者執下我常体周編〔遍〕、量〔同ニ〕虚空一、隨レ處造レ業、受ニ苦楽一故上、」二者、執下我其体雖レ常、而量不レ定、隨ニ身大小一、有ニ巻舒一故上、三者、執下我体常至細、如ニ一極微一、潜轉ニ身中一、作ニ事業一故、上」ト、第一ハ勝數二派ノ説ヲ指スモノナリ、我ノ特性ハ左ノ如シ、

(一)〔我ハ〕常住eternal ナリ、地水火風ノ極微ハ常住ナレモ其積集ハ無常ナリ、然レモ我ハ積集ニアラズシテ空時方意ト同ジク永遠ナリ、即チ勝論派ノ説ハ die Unsterblichkeit der Seele ナルヲ知ルベキナリ、

(二) 〔我ハ〕周徧 all-pervading ナリ、假令ヒ個人ノ身体ハ局處ニ繫着スルモ、其我ハ達セザル處ナキナリ、例ヘバ身ハ東京ニアルモ我ハ同時ニ北京カルコッタ、巴里、倫敦、等ニアルナリ、我、ハ周徧ナルガ故ニ極大ナリ、衛世師經第七巻第一章、第廿二節ニ云ク、空ハ其周徧ナルガ為メニ極大ナリ、而シテ我モ亦此ノ如シト、知ルベシ、我ハ意ノ至微ナルニ似ザルヲ、

(三) 我、ハ數多 manifold ナリ、唯識疏一末(四十六左)ニ云ク、〔空時方我意五、是一物、地水火風四、是多物〕ト、〔又因明疏巻五(九右)ニ云ク「四本極微體性雖レ多、空時等五躰各唯一」ト〕慈恩ハ〔此ノ如ク〕我ヲ以テ一物トセリ〔若シ慈恩ガ一物ト云フハ不積集ニシテ多物ト云フハ積集ナリトセバ謬誤ニアラズ、然レモ慈恩ノ言、差〻明瞭ナラザル所アリ、〕然レモ衛世師經第三巻第二章第廿節ニ Because of its circumstance soul manifold トアリ、サンカラミスラ氏曰ク、境遇ハ種々ナル事情ナリ、即チ一人ハ富有、一人ハ下劣、一人ハ有福、一人ハ不幸、一人ハ生レ貴ク、一人ハ生レ賤ク、一人ハ有〔識〕一人ハ讀ム〕拙ナルガ如ク、是等ノ境遇ハ雜種ノ我ナケレバ出来得ベカラザル的〔ガ故〕ニ之レヲ以テ數多ナル証トナスベキナリ、〔然レモ後ノ尼夜耶派ハ人類各自ノ精神 Jivâtman ノ外別ニ最上ノ精神 Paramâtman アリトシ、此最上ノ精神ハ唯一ニシテ全智全能ナル世界ノ造物主ナリトセリ、(Tarkasangraha, transl. by Ballantyne, P. 12)

(四) 我ハ個体ナリ、數多ノ我ハ無形ナルガ故ニ周徧ニシテ極大ナルモ、同時ニ存在シテ相互ニ抵觸スル〕ナク、各々分立シテ個体ヲ有シ、身体意及ビ覚能ト異ナルモノナリ、

(五) 我ハ身体ヲ支配スル專権者ナリ、衛世師經第三巻第二章第四節ノ注ニサンカラミスラ氏我ヲ解シテ曰ク、家ノ持主ガ其家ノ小ナルガ為メ、破壞セル建物ヲ修繕シ若クハ増築スルガ如ク、身体ノ支配者モ亦其住處タル身体ヲ食

物等ニヨリテ營養シ、又瘡傷ハ藥等ヲ以テ恢復セシメ、半ハ分裂シタル手若クハ足ヲ附着セシム、身体ノ支配者ハ此ノ如ク家ノ主任者ニ類似セリト、乃チ身体ヲ以テ我ノ假住ト見做スモノナリ、

(六) 我ハ作者ナリ、數論派ニテハ我ハ受者ニ過ギザレモ、勝論派ニテハ我ハ作者ナルガ故ニ均シク我ト称スルモ、混同スベカラザルナリ、金七十論巻上（備考会本四十七左）ニ云ク「僧佉説、人非ニ作者一、衛世師説、人是作者」、ト以テ其差ヲ知ルベキナリ、

〔(七) 我ハ円体ナリ、十句論ニ空時方我ノ四者ヲ以テ極大ノ円体トセリ、〕

〔(八) 我ハ和合因縁ナリ、因明疏三（三十三右）ニ云ク、「謂和ニ合諸德一、与レ我合時、我為ニ和合因縁一、和合始能和合、令ニ德与レ我合一」ト、我ハ覺楽苦等ノ九德ノ和合因縁トナリテ智識ヲ生ズ、然ルニ意モ亦智識ヲ生ズレモ和合因縁タルニアラザルナリ、

其他我ノ事ハ已ニ実句ノ下ニ説明セルガ故ニ盡クハ叙述セズ、次ギニ意〔मनस् manas〕ノ何タルカヲ説明セン、

(一) 〔意ハ〕常住ナリ、十句論ニ「九実五常、四分別」トアリ、其五ハ空時方我意ヲ謂フ、然レバ意ノ常住ナル一點ニ於テハ我ト異ナルヿナキナリ、衛世師經第三巻第二章第二節ノ注ニサンカラミスラ氏曰ク、意ノ常住ナルヿハ其実体ヲ有セザルニヨリテ証スベシ、而シテ又其実体ヲ有セザルヿハ之レヲ組成スル部分ヲ想像スベキ根據ナキニヨリテ知ルベキナリト、〔意ヲ常住ナリトスルハ尼夜耶派ニ特殊ナル點ナラン、ボエトリンク氏ノ梵語辞典意ノ下ニ es gilt, ausser im Nyâja, für vergänglich トアリ、廣キ意味ニテ云ヘバ衛世師ハ尼夜耶ノ一派ナルヿヲ忘ルベカラザルナリ、〕

(二) 意ハ微小ナリ、意ノ大小ニ就イテハ異論ナキニアラズ、林常ハ意ヲ以テ空時方我ト同ジク極大トセリ、然レモ

是レ全ク林常ノ謬見ナリ、意ハ微小ナリ、極大ニアラズ、衛世師經第七巻第一章第廿三節ニ意ハ絶對的ニ微小ナリ、the internal organ is absolutely small ト云ヘリ、〔即チ意ヲ以テ極微 aṇus トスルモノナリ、〕サンカラミスラ氏モ亦衛世師經第三巻第二章第一節ノ注ニ云ク、認識ガ同時ニ出来ザルヲ以テ之レヲ観レバ意ガ原子〔即チ極微〕ノ大サヲ有スルヲ証スベキナリト、〔然レモ〕意ハ極メテ微小ナリト雖モ四大ノ極微ヨリ大ナルモノナラン、唯識論巻一末（四十八右）ニ云ク、「說二意是微一、如二二微果許大一、而有礙也」ト、慈恩ノ此說ニ據レバ意ノ大サハ大低子微ノ大サナリ、然レモ子微ノ如ク他ノ極微ヨリ成立スルモノニアラザルナリ、〔義蘊巻上（二十六右）ニ「意如二二微一、非二二微成一」ト云ヘルハ即チ此意ヲ述ブルモノナリ、〕

㈢ 意ハ數多ナリ、人々我ヲ有スルガ如ク、人々一箇ノ意ヲ有ス、衛世師經第三巻第二章第三節ニ云ク、「意ハ各個体ニ一ナリ、何ントナレバ、執意ト認識ハ同時ニ起ラザレバナリ」ト、若シ各個体ニ幾多ノ意アラバ執意ト認識ハ同時ニ起ルベキヲ意味スルナリ、〔慈恩ガ唯識疏一末（四十六左）及ビ因明疏五（九右）ニ意ヲ以テ一物トスルハ蓋シ誤ナリ、〕

㈣ 意ハ個体ナリ、我ノ個体ナルヿ已ニ說明セリ、然ルニ意モ亦我ノ如ク個体ナリ、故ニ無細分ナリ、不積集ナリ、決擇巻四（十九左）ニ云ク、「意無細分何有動作」ト、論釋巻下（三十九右）ニ云ク、「不積集実謂二極微地水火風実并意実一」ト、亦意ノ個体ナルヲ謂フナリ、

㈤ 意ハ有形ナリ、唯識疏巻一末（五十四左）ニ云ク、「意実是〔有〕礙攝、亦非二是心一、形如二芥子一、我所以須具、非レ謂レ心也」ト、ガウフ氏ハ意ヲ internal organ ト訳セリ、蓋シ無形ノ心意ヲ謂フニアラズシテ有形（即チ肉身）ノ機関ヲ謂フ、〔即チ五根ハ外面的覚能ニシテ意ハ内面的覚能ナリ、〕姑ク〔意ヲ〕デカルト氏ノイハユル pineal gland

ノ類ト見做サバ当ラズト雖モ遠カラザルナリ、〔或ハ又意ヲアリストテレス氏ノ通感 ἀισθητήριον ニ比スルヲ得ベシ、エルフェンストン氏曰ク、One of the most remarkable coincidences is, that all the Hindú schools constantly join to the five senses a sixth internal sense (which they call mind) which connects the other five, and answers exactly to the common, or internal, sense of Aristotle (History of India, Vol. p. 236) アリストテレス氏ハ心臓ヲ以テ通感ノ機関トシ、精神ハ心臓中ニ居ヲ占ムルモノトセリ、或者ハ又意ヲ以テ心臓ニ比セリ、〕

(六) 意ハ無觸ナリ、前ニ意ハ有形ナリトセリ、然レ𪜈意ハ無觸ナリ、無色ナリ、無可見ナリ、無對眼ナリ、故ニ現量ニヨリテ知ルベキモノニアラズ、單ニ比量ニヨリテ知ルベキモノナリ、

(七) 意ハ圓量ナリ、意ガ圓量ナルヤ否ヤニ就イテハ異論ナキニアラズ、〔基辨ハ意ヲ以テ或ハ円体ナリトシ、或ハ円体ニアラズトシ、曖昧模棱ノ間ニ論ジサレリ、〕光嚴〔ハ其傍観録ニ断言シテ〕曰ク「意実如二子微大一、故非二極微一、有質礙、非邊行、故亦非二邊大一、意実非二圓徳一、其理炳焉」ト、是レ極微ト極大ハ共ニ円体ナリ、然ルニ意実ハ極微ニモ極大ニモアラザルガ故ニ円体ニアラザルヲ謂フナリ、然レ𪜈決擇巻二(二十七右)ニ云フ「意所有量、是圓体徳、非所作故、」ト、又巻四(二十七左)ニ云ク「意実既説為レ円、應レ知意実是円量依」ト、林常ノ説ハ光嚴ト正反對ニアリ、十句論ニ「如レ是九実五常四分別」云云「円不円亦爾」トス〔云ヒ、又唯識疏一末(五十三左)ニ「父母極微、有二円量徳合一、故無二方分一、其子微等上有二方分一、意雖二有礙一、量如二子微一、然無二方分一、躰是常住」ト云ヘ〕ルヲ以テ之レヲ見レバ林常ノ説是ニシテ光嚴ノ説非ナリ、〔ルヲ知ルベキナリ、〕

(八) 意ハ不和合因縁ナリ、意ハ九徳ヲ和合セズト雖モ、亦九徳ヲ惹起スノ因縁トナル、故ニ之レヲ不和合因縁ト謂

フ、

第五節ニ説明スル所ノ我意ノ特殊ノ性質ト右ニ列挙スル所ノ差別ヲ對照セバ両者ノ異同自ラ明瞭ナラン、然レモ尚ホ此ニ我意ノ両者ト密着ノ関係ヲ有スル五根（即チ覚能）ノ事ヲ説明セン、

五根ハ即チ地水火風空ナルヿ已ニ第五節ニ云ヘリ、然レモ地水火風空ガ如何ンシテ五根タルヲ得ルカ、衛世師派ノ考ニテハ吾人ノ五官即チ視覚、味覚、嗅覚、觸覚、聴覚ノ機関ハ地水火風空ノ五大ヨリ成ル、即チ視覚ノ機関ハ火ヨリ成リ、味覚ノ機関ハ水ヨリ成リ、嗅覚ノ機関ハ地ヨリ成リ、觸覚ノ機関ハ風ヨリ成リ、聴覚ノ機関ハ空ヨリ成ル、〔（衛世師經第八巻第二章第五節及ビ第六節）〕地ヨリ成ルモノ獨リ嗅覚ノ機関ニ止マラズ、然レモ我意ノ地ト合シテ成ルモノハ嗅覚ノ機関ナリ、視覚ノ機関ハ我意ノ〔ト〕火ト合シテ成リ、味覚ハ我意ノ〔ト〕水ト合シテ成リ、觸覚ハ我意ノ〔ト〕風ト合シテ成リ、聴覚ハ我意ノ〔ト〕空ト合シテ成ル、蓋シ地ハ香ヲ有シ、水ハ味ヲ有シ、火ハ色ヲ有シ、風ハ觸ヲ有シ、空ハ声ヲ有ス、然ルニ香ニヨリテ香ヲ感ジ、味ニヨリテ味ヲ感ジ、色ニヨリテ色ヲ感ジ、觸ニヨリテ觸ヲ感ジ、声ニヨリテ声ヲ感ズ、是レ実ニ勝論派ノ唱道スル所ニシテ其事甚ダエムペドクレス氏ノ言フ所ニ似タリ、

Γαῖαν μὲν γὰρ γαίαν ὀπώπαμεν, ὕδατι δ᾽ ὕδωρ,
Αἰθέρι δ᾽ αἰθέρα δῖον, ἀτὰρ πυρὶ πῦρ ἀΐδηλον.

然ルニ吉藏ノ百論疏上中ニ（二十一左）數論勝論両派ノ五根ニ関スル説ヲ区別シテ曰ク、

釋三五大成二五根一、不同、一云遍造、是優樓迦義、二云、偏造者五大成二眼根一、火大偏多、色是火実求那、眼還見レ色、五大成二耳根一、空大偏多、声是空実求那故、耳還聞レ声、五大成二鼻根一、地大偏多、香是地実求那故、鼻還聞レ

香、五大ノ成舌ニ根ニ、水大偏多、味是水実求那故、舌還知ノ味、五大成ニ身根ニ、風大偏多、觸是風実求那故、身還覚ノ觸、次偏造是迦毗羅義、以ノ色成ニ火大ニ、火大成ニ眼根ニ、〔眼根〕還見ノ色、声塵成ニ空大ニ、空大成ニ耳根ニ、耳根還聞ノ声、香塵成ニ地大ニ、地大成ニ鼻根ニ、鼻根還聞ノ香、味塵成ニ水大ニ、水大成ニ舌根ニ、舌根還知ノ味、觸塵成ニ風大ニ、風大成ニ身根ニ、故身還覚ノ觸、五知根勝故、各用ニ一大ニ而成、五業根劣故、具ニ五大ニ而成、

此説前ニ擧クル所ト同ジカラズ、然レモ衛世師經ニ據ルニ吉藏ノ説從ヒ難シ、十句論ニ「鼻根即地、味根即水、眼根即火、皮根即風、耳根即空」ト云ヘルモ吉藏ノ意ニアラズ、數論勝論両派ノ五根ニ関スル説ノ区別ハ吉藏ノ言フ所ニアラズシテ左ノ點ニアリ、數論ハ耳皮眼舌鼻ノ五知根ヲ以テ我慢ノ生ズル所トシ、空風火水地ノ五大ヲ以テ声觸色味香ノ五唯ノ生スル所トシ、五唯ハ我慢ノ生ズル所トス、然ルニ勝論派ハ鼻味眼皮耳ノ五根ヲ以テ地水火風空ノ五大ノ生ズル所トシ、地水火風空ノ五大ハ盡ゝク実ニ属シ、他ノ物ノ生ズル所ニアラズトス、是レ其区別ナリ、但ゝ數論派中或者ハ五大即チ五根ヲ成スト唱道セシナランカ、義林章三(十二左)ニ數論ノ説ヲ擧ゲテ曰ク「有説火成ニ眼根ニ、空成ニ耳根ニ、地造ニ鼻根ニ、水成ニ舌根ニ、風造ニ皮根ニ」ト、此ノ如クナレバ勝論派ノ説ト異ナラズ、然レモ其五大ハ五唯ヨリ成ルトスルノ點ハ同ジカラザルナリ、

第十四節 声ハ無常ナリノ説……声論派即チ「ミーマーンサー」学派ハ当時声ハ常住ナリトノ説ヲ唱道シテ、吠陀經ノ教権ヲ維持セントセリ、然ルニ往々之レニ反シテ声ハ無常ナリト主張スル学派アリ、尼夜耶派ハ唱道シテ曰ク「声ハ常住ナルヿ能ハズ、第一、原因ヲ有スルガ故ニ、第二、覚能ニヨリテ認識スベキガ故ニ、第三、人工的トシテ談話サルヽガ故ニ」Muir, Sanskrit Text, Vol. III p. 109) ト、勝論派モ亦尼夜耶僧侶ノ両派ト同ジク声ノ無常ヲ唱道シテ声論派ニ反抗セリ、既ニ第六節ニ叙述スルガ如ク、勝論派ガ声ヲ三期ニ分チ、最初、中間、最後トスルヲ以テ之レ

ヲ見レバ其声ヲ以テ生滅スルモノトスルヿ察スベキナリ、衛世師經第二巻第二章第廿六節乃至第廿九節ニ云ク「発言ノ前ニ其存在セル表章ナキガ故ニ声ハ存在セザルナリ、声ハ常住ト異ナルガ故ニ、発言以前ニハ存在セザルナリ、声ハ原因ヲ有スルガ故ニ、常住ニアラザルナリ」ト、勝論派ハ此ノ如ク声ノ常住ナルヲ否定スレモ、吠陀經ノ教権ヲ拒絶スルニアラズ、却テ吠陀經ノ神聖ニシテ過誤ナキヿヲ公言セリ、

第十五節　神ノ観念……衛世師經第一巻第一章第三節ニ云ク「教権ハ黙示ニ属ス、何ントナレバ是レ彼レノ宣言ナレバナリ」ト、サンカラミスラ氏之レヲ注シテ此ニ彼レトアルハ伊湿伐羅〔ISVARA〕（即チ神）ナリ、教権ハ黙示即チ吠陀經ニ属ス、何ントナレバ彼レ伊湿伐羅ニヨリテ宣言サレタレバナリトセリ、又衛世師經最後ノ句ニ云ク「教権ハ彼レニヨリテ宣言サレタルガ故ニ黙〔黙〕示ニ属ス」ト、是等ハ皆吠陀經ノ教権ヲ維持スル為メノ言ナルヿ復タ疑ヲ容レズ、然ルニ又是等ノ言ニヨリテ勝論派ガ神ノ観念ヲ有シタルヿヲ知ル、十句論中ニハ一文〔句〕モ神ノ観念ヲ言表バシタルモノナシ、衛世師經中ニモ神ト云フ語ハ見当ラサルモ tad（彼）ナル語ヲサンカラミスラ氏ハ伊湿伐羅（即チ神）ノ義トセリ、然レモ是レ決シテ氏ノ臆測ニ出ヅルモノトハ思ハレズ、可ントナレバ伊湿伐羅ノ事「タルカサングラハ」〔Tarka-sangraha〕ニ出ヅレバナリ、其文ニ云ク「吠陀ノ文ハ伊湿伐羅ノ発言スル所ナルガ故ニ總ベテ証據ナリ」(Muir, Sanskrit-Text, Vol. III. p. 127) ト、「タルカサングラハ」モ亦一ツノ衛世師派ノ書ニ係ル、第十三節ニ後ノ尼夜耶派ガ各自ノ精神 Jîvâtman ノ外別ニ一個最上ノ精神 Paramâtman アリトセルヿヲ論ゼシガ、此最上ノ精神モ世界ノ造物主ナル處ヨリ見レバ亦一箇ノ神ナリ然レモ最上ノ精神ト伊湿伐羅ハ蓋シ同一ニアラザルベシ、最上ノ精神ハ萬有的ニシテ伊湿伐羅ハ人性的ナレバナリ、要スルニ、勝論派ノ世界観ハ無神論ナリト断言スルヲ得ザルモノ、如シ、然レモ勝論派ノ哲学組織ニアリテハ假令ヒ神ノ存在ヲ是定スルモ、神ノ効用甚ダ少カルベキナリ、何ント

ナレバ一切ノ現象ハ自然ニ相竢チテ存在シ、別ニ支配者ヲ要セザレバナリ、後ノ勝者ガ最上ノ精神ヲ造物主トシテ増加シタルハ全ク贅ナリト謂フベシ、但ゝ原子ヲ結合スルモノトシテ神ノ存在ヲ預想セバ差ゝ合理的ナルモ、勝論派ハ決シテ神ガ原子ヲ結合スト唱道セザルナリ、モニエル、ウヰルリヤムス氏オモヘラク、ゴタマモ迦那陀モ共ニ世界ノ成立ハ不〔可〕思議力〔अदृष्ट〕Adṛishṭa ノ結果ト見做シタルナラント、或ハ然ラン、〔不可思議力ハハルトマン氏ノ不覚的スペンセル氏ノ不可知的ノ類ナリ、然レモ〕勝論派ノ全体ノ思辨ノ傾向ハ無神的ナリ、吠陀經ヲ以テ伊湿伐羅ノ宣言ナリトシ、其教権ヲ維持シタルハ、恐クハ異端邪教ト見做サル、ヿヲ避クルノ意ニ出デタルナラン、

第十六節　因中無果ノ説……因果ノ事ニ関シテ勝論派ハ当時自ラ別ニ一主義ヲ成セリ、之レヲ因中無果ノ説トナス、〔勝論派ノ因中無果論ハ新生論 Epigenesis ニ比スベク、數論派ノ因中有果論ハ la doctrine de la préexistence des germes ニ比スベシ、(Voyez Ribot, L'Hérédité, p. 286)〕因中無果トハ結果ハ原因ノ中ニ存セズト云フヿニテ、即チ瓶ハ土聚ノ中ニアルニアラズ、唯ゝ陶土ノ縁ヲ竢チテ土聚變ジテ瓶トナル、芽莖ハ種子ノ中ニアルニアズ、唯、時氣ノ縁ヲ竢チテ芽莖始メテ生ズトスルナリ、勝論派ハ此點ニ於テハ數論派ト正反對ニアリ、數論派ハ因中有果ノ説ヲ主張セリ、金七十論上（備考会本 廿五左）ニ因中有果ヲ証スル為メニ五種ノ理由ヲ擧ゲテ之レヲ評論セリ、義林章一本（十六左）ニモ「雨衆外道執、諸法因中常有二果性一、如二禾以レ穀為レ因、欲レ求レ禾時、唯種二於穀一、禾定從レ穀生、不二從レ麥生一、故知穀因中先已有二禾性一、不レ爾應下一切從二一切法一生上、」ト云ヘリ、〔闍伊那派ハ因中亦有果亦無果論ヲ主張セリ（百論疏上中 十七左）〕然ルニ釈迦ノ説ハ數論ニモ同ジカラズ、又勝論ニモ同ジカラズ、金七十論上（備考会本 廿四右）ニ云ク「釈迦所説、土聚中瓶、不レ有不レ無」ト、果シテ然ラバ、釈迦ハ両者ヲ否定シテ更ニ第三ノ地位ヲ取レリ、百論ノ下ニ「破因有果品」ト「破因無果品」トアリ、前者ハ數論ヲ破シ、後者ハ勝論ヲ破スルモノナリ、勝論派ノ因中無果ノ

說、惠月ノ十句論中ニハ見当ラズ、然レモ衛世師經第九巻第一章第一節ニ云ク「結果ハ前ニアリテハ無有ナリ、業ト德トヲ確說スベキ根據ノ無有ナルガ故ナリ、」ト、是レ結果ハ其已ニ結果タルニ先チテ原因中ニ存スルモノニアラザルヲ謂フ、然レモ勝論派ハ結果ノ性質ハ已ニ原因ニ存ストス、衛世師經第二巻第一章第廿四節ニ云ク「結果ノ德ハ原因ノ德中ニ先存スルヿヲ觀察スルヲ得」ト、固ヨリ結果其レ自身ヲ以テ已ニ原因中ニ存スルモノトハセズ、其數論派ト正反對ニアルヿ以テ知ルベキナリ、」

第十七節　總評……勝論派ノ哲学組織ハ現象世界ノ分解的探求ナルガ故ニ形而上学ト云フヨリモ寧ロ物理的世界觀ナリ、バルト氏ハ勝論ヲ以テ the physical theory of the world トシ、モリエル、ウォルリヤムス氏ハ physical inquiries トシ、ドイッセン氏ハ naturwissenschaftliche Klassifizierung des Seienden トセリ、我意ノ両者モ其研究ノ問題ニ属スレモ是等ハ其主トシテ詳述スル所ニアラズ、又精神ト物質ノ関係ノ如キ人類ト神ノ関係ノ如キ輪廻ノ如キ、其他百般形而上ノ問題ノ如キハ多クハ之レヲ措キ、主トシテ物理的ノ穿鑿ヲ為セリ、故ニ其組織ハ一種ノ自然哲学ト謂フベキモノナリ、ヘーゲル氏ガ衛世師ヲ評シテ「心ヲ物理、即チ特殊的若クハ感覚的ノ對象ニ用フ」(Gesch. d. Philas. Bd. I, S. 162) ト云ヘルハ確当ナリ、然レモ勝論派ノ学問ハ畢竟塵世ヲ解脱シテ涅槃ノ境界ニ達スルニアリ、此一點ニ於テ尼夜耶僧佉等ト毫モ異ナルヿナキナリ、惠月ノ十句論中ニハ解脱若クハ涅槃ノヿ少シモ見エズ、然レモ提婆菩薩ノ外道小乘涅槃論ニ云ク、

「外道毗世師論師、作ニ如レ是說一、謂地水火風虛空微塵物切德業勝等十種法常故、和合而生ニ一切世間知無知物一、從ニ二微塵一、次第生ニ一切法一、無ニ彼者一無ニ和合者一、無ニ和合者一、即是離散、離散者即是涅槃、是故毗世師論師說、微塵是常、能生ニ一切物一、是涅槃因、

〔又慈恩傳巻四（十九右）ニ云ク、

勝論師立二六句義一、謂實德業有同異性和合性此六是我所受具、未二解脱一已来、受二用前六一、若得二解脱一、与レ六相離、称為二涅槃一、〕此ニ勝論派モ亦他ノ多クノ学派ト同ジク涅槃ノ説アルヿヲ明言セリ、但シ其勝論派ノ論ヲ正シク寫出サヾルハ惜ムベシ、衛世師經第一巻第一章第二節ニ「法ハ優進及ビ至善ニ到達セシムル所ノモノナリ」ト云ヒ、第四節ニ至リテ「至善ハ特殊ノ法ヨリ起ル真理ノ智識ヨリ生ジ、而シテ実德業大有同異和合ナル句義ノ同一ナルト不同一ナルトニヨリテ得ラルヽモノナリ」ト云ヘリ、此ニ至善〔 प्रयस् 〕トアルハサンカラミスラビ及ジヤヤナーラーヤナ二氏ガ云ヘル如ク解脱〔 मोक्ष 〕ノ一ニテナリ〕〔ジヤヤナーラーヤナ氏衛世師經第一巻第一章第二節ノ注ニ高邁ハ樂園ナリ、至善ハ解脱 अभ्युदयःस्वर्गःनिःश्रेयसं मोक्षस्तयो ト云ヘリ、之レヲ要スルニ、〕勝論派ハ全ク六句ノ智識ニヨリテ精神ヲシテ一切特殊ノ性質ヲ離レ、以テ解脱ヲ得セシムルモノナリ、

勝論派ガ空時方ヲ以テ実トスルハ蓋シ是ヲ以テ客観的ニ実在ヲ有スル本体ト見做シタルニ出ヅ、西洋ノ哲学者中ニモ時間空間ニ就イテハ異論ナシトセズ、ライブニッツ氏ハ之レヲ真実ナル本体トシ、カント氏ハ之レヲ直観ノ図式トスルガ如キ是レナリ、然レモ方ヲ以テ一種ノ本体トスルモノニ至リテハ他ニ其例アルヲ知ラザルナリ、但シ印度哲学派中方論師ナルモノアリテ諸方ヲ以テ世界ノ本源トスルアルノミ、提婆菩薩ノ外道小乘涅槃論ニ「方論師説、最初生二諸方一、從二諸方一生二世間人一、從レ人生二天地一、天地滅没、還入二彼處一名為二涅槃一、」ト、方論師ハ方ヲ以テ本体トナスモノト見ユ、勝論派或ハ此思想ヲ方論師ヨリ得来リタルナランカ、時間ノ実有如何ニ就イテハ当時種々ナル説ノ行ハルヽアリ、時計外道即チ時論師ハ時ノ実有ヲ唱道セリ、其事大日經及ビ外道小乘涅槃論ニ見ユ、大日經義釈巻二

(右七)ニ云ク、

經云ニ復計有時一者、謂レ計ニ一切天地好醜、皆以レ時為レ因、如ニ彼偈言一、時来衆生熟、時至則催促、時能覚ニ悟人一、是故時為レ因、更有レ人言、雖ニ一切人物非ニ時所レ作、然時是不變因、是実有法、細故不レ可レ見ニ以、花実等果一故可レ知レ有レ時、何以故、見レ果知レ有レ因故、此時法不レ壊故常云云、

小乗有部ニテ三世実有ト云フ可アレモ、是レ單ニ現象ノ已滅未起ニ就イテ假定スルモノニテ真ニ時ト云フ本体アリトスルニハアラザルナリ、

勝論派ノ原子論ト希臘ノ原子論即チロイキップス及ビデモクリトス諸氏ノ唱道スル所ト暗合スルモノアルハ亦一奇ト謂フベキナリ、

(一) 原子論者オモヘラク、実体ハ夥多ノ原子ヨリ成ルト、然ルニ勝論派ニアリテハ全世界ハ無數ノ極微ノ結合ヨリ成ルトセリ、

(二) 原子論者オモヘラク、実有ト空無ト両者必ズ相竢チテアラユル物体ヲ組織スト、勝論派ノ説ク所之レト全ク同一ナリト謂フヲ得ザレモ、亦九実ノ外ニ五無アリトセリ、

(三) 原子論者オモヘラク、原子其レ自身ハ〔ノ〕生滅ハ決シテ之レナキモ、生ハ原子ノ離レタルガ合シ来ルヿ、滅ハ合シタルガ離レ去ルヿナリ、勝論派ニアリテモ極微其レ自身ハ常住ニシテ假令ヒ世界ノ成壊ニ遭遇ストモ、些ノ變易アルヿナキナリ、

(四) 原子論者オモヘラク、原子ハ微小ナレモ、數理的ノ點ニアラズ、多少ノ延長ヲ有ス、然レモ最早分解スベカラザルモノナリト、勝論派ニアリテモ、極微ハ多少ノ延長ヲ有スルモノトスルハ其円体トスルヲ以テ知ルベク、最早

分解スベカラサルモノトスルハ其無細分ト称スルヲ以テ知ルベキナリ、

(五) 原子論者オモヘラク、一切ノ原子ハ知覚スベカラズト、然ルニ勝論派ニアリテ極微ハ非現境ニシテ知覚スルヲ得ズ、但ゝ子微以上ハ現境ニ属シ、知覚スルヲ得ルナリ、

其他尚ホ暗合ノ點少シトセズ、然レモ一々挙グルハ煩ハシケレバ之レヲ省ク、原子論者ト勝論派ノ相異ナル點、隨分之レアリ、例ヘバ原子論者ハ有無ヲ同一視スレモ、勝論派ハ之レヲ分別シ、原子論者ハ原子ノ形状、大小軽重等不同ナリトスレモ、勝論派ニアリテハ之レヲ言ハザルガ如キ是レナリ、原子論者モ四大ヲ説キ、勝論派モ亦四大ヲ説ク、然レモ原子論者ハ四大ヲ以テ原子結合ノ結果トシ、勝論派ハ世界ハ四大ノ極微ヨリ成ルトス、故ニ其間混同スベカラザル差別アリ、原子論ノ外原子論者ト勝論派ノ間ニ著シキ暗合アリ、何ゾヤ、原子論者ハ人類ハ土ヨリ成ルトス、然ルニ勝論派モ亦人体ハ土質ナリトセリ、ロイキップス氏ト同時代ノ〔パルメニデス、エムペドクレス〕〔諸〕氏モ亦オモヘラク、人類ハ地ヨリ生ズト、列子モ亦「精神者、天之分、骨骸者、地之分、」(天瑞篇)ト云フモ、亦相類スルノ考ヲ有シ、創世記第二章第七節ニ「耶和華神以二地塵一造レ人、嘘二生氣一入二其鼻一、而人成、為二生靈一」ト云フガ如キ其人類ヲ土ヨリ成ルトスルノ一點ハ自ラ勝論派ノ考ト暗合セリ、